

2021 年 IEEE 関西支部 総会資料

2021 年 2 月 18 日
IEEE 関西支部

総会資料目次

I.	2021 年関西支部役員・理事	1
II.	2021 年 KANSAI CHAPTER 役員	6
III.	2021 年関西支部 STUDENT BRANCH 役員	8
IV.	2020 年 活動報告 および 2021 年活動計画	10
V.	関西支部会員数	422
VI.	2020 年 会計報告	444
VII.	2021 年 予算	46
VIII.	受賞者	48
	参考情報	50

2021 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時:2021 年 2 月 18 日(木) 13 時 00 分~17 時 00 分
2. 場所: 関西大学 梅田キャンパス 8 階大ホール
〒530-0014 大阪市北区鶴野町 1 番 5 号
3. 総会スケジュール
 1. 役員・理事紹介
 2. 2020 年活動報告および 2021 年活動計画
 3. 2020 年会計報告および 2021 年予算
<休憩>
 4. Chapter 役員および活動紹介
<休憩>
 5. IEEE 関西支部 Young Professionals 賞
 6. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
 7. IEEE 関西支部メダル授賞式(新 Senior Members)
 8. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介
 9. 閉会の挨拶

I. 2021年関西支部役員・理事

1. 役員 (Section Officers)

Chair:	畑 豊	(兵庫県立大学)
Vice Chair:	松居 真一	(パナソニック)
Secretary/ Treasurer:	石田 達朗	(パナソニック)

2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	佐藤 高史	(京都大学)
NC Chair:	村田 忠彦	(関西大学)
SAC Chair:	福水 洋平	(立命館大学)
TPC Chair:	上田 哲三	(パナソニック)
AC Chair:	伊野 文彦	(大阪大学)
COC Chair:	戸出 英樹	(大阪府立大学)

3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	小林 正明	(元三菱電機)
WIE AG Chair:	柳川 由紀子	(オムロン)
YP AG Chair:	塩見 準	(京都大学)

4. 理事 (Activity Chair)

EA Chair:	田邊 信二	(元三菱電機)
-----------	-------	---------

5. 理事 (Past Officer)

Past Chair:	杉江 俊治	(京都大学名誉教授)
-------------	-------	------------

6. 理事 (Past Committee Chairs)

Past TPC Chair	西浦 敬信	(立命館大学)
----------------	-------	---------

7. (Observer)

Past Vice Chair	梅田 信雄	(関西電力)
Past Secretary	西村 和敏	(関西電力送配電)
Past Treasurer	橋本 直哉	(関西電力)

8. Committee Officers

a. Membership Development Committee

Chair:	佐藤 高史	(京都大学)
Secretary:	新谷 道広	(奈良先端科学技術大学院大学)
Member:	奥田 武夫	(オムロン)
	中村 孝夫	(住友電気工業)
	酒井 啓之	(パナソニック)
	澤田 宏	(日本電信電話)
	満仲 健	(シャープ)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	小林 浩	(三菱電機)
	中島 重義	(大阪市立大学)
	木村 啓明	(ローム)
	尾原 郁夫	(京セラ)
	加藤 貴敏	(村田製作所)
	柏 卓夫	(古野電気)
	八木 直美	(姫路獨協大学)

b. Nominations Committee

Chair:	村田 忠彦	(関西大学)
Member:	田畑 修	(京都先端科学大学)
	太田 淳	(奈良先端科学技術大学院大学)

c. Student Activities Committee

Chair:	福水 洋平	(立命館大学)
Member:	木村 達明	(大阪大学)
	辺 松	(京都大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	加藤 恒夫	(同志社大学)
	市川 晃平	(奈良先端科学技術大学院大学)
	礪川 悌次郎	(兵庫県立大学)
	宝田 隼	(関西大学)
	木原 崇雄	(大阪工業大学)
	飯間 等	(京都工芸繊維大学)
(Student Representative)	小野 龍輝	(京都大学)

d. Technical Program Committee

Chair:	上田 哲三	(パナソニック)
Vice Chair:	市川 治	(滋賀大学)
Secretary:	瀧川 信一	(パナソニック)

e. Awards Committee

Chair:	伊野 文彦	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	太田 能	(神戸大学)
	太田 正哉	(大阪府立大学)
	久保田 寛和	(大阪府立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	杉原 英治	(大阪大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	辻岡 哲夫	(大阪市立大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	林 和則	(大阪市立大学)
	村田 英一	(京都大学)
	山田 晃久	(モリタホールディングス)
	和田 友孝	(関西大学)

f. Chapter Operations Committee

Chair:	戸出 英樹	(大阪府立大学)
Secretary:	藤本 章宏	(和歌山大学)
Member:	渡辺 博文	(リコー)
	小林 和淑	(京都工芸繊維大学)
	武内 良典	(近畿大学)
	何 一偉	(大阪電気通信大学)
	和田 友孝	(関西大学)
	和田 敏裕	(三菱電機)
	真田 篤志	(大阪大学)
	小西 毅	(大阪大学)
	中村 哲	(奈良先端科学技術大学院大学)
	西村 良太	(徳島大学)
	鷹羽 浄嗣	(立命館大学)
	平木 英治	(岡山大学)
	戸川 欣彦	(大阪府立大学)

g. Life Members Affinity Group

Chair:	小林 正明	(元三菱電機)
Vice Chair:	櫛木 好明	(元パナソニック)
Vice Chair:	千葉 徹	(元シャープ)
Vice Chair:	下原 勝憲	(同志社大学教授、元 ATR 所長)
Secretary:	平野 和夫	(元住友電気工業)
Secretary:	杉本 繁	(元パナソニック)

h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	柳川 由紀子	(オムロン)
Vice Chair:	熊木 武志	(立命館大学)
Vice Chair:	辻川 美沙貴	(パナソニック)
Secretary:	Tran Thi Hong	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer:	岩元 美由紀	(京都大学)

i. YP (Young Professionals) Affinity Group

Chair:	塩見 準	(京都大学)
Vice Chair:	北川 冬弥	(パナソニック株式会社)
Secretary/Treasurer:	佐藤 丈博	(京都大学)
Member:	和泉 慎太郎	(大阪大学)
	佐藤 伸吾	(関西大学)
	伊原 彰紀	(和歌山大学)
	田中 亜実	(立命館大学)
	檜作 彰良	(立命館大学)
	岩居 健太	(立命館大学)
	二社谷 一樹	(大阪大学)

j. EA (Educational Activities)

Chair:	田邊 信二	(元三菱電機)
--------	-------	---------

II. 2021 年 Kansai Chapter 役員

1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	渡辺 博文	(リコー)
Vice Chair:	木村 睦	(龍谷大学)
Secretary:	安藤 友一	(リコー)
Treasurer:	上沼 睦典	(奈良先端科学技術大学院大学)

2. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	小林 和淑	(京都工芸繊維大学)
Vice Chair:	橋本 隆	(パナソニック)
Secretary:	土谷 亮	(滋賀県立大学)
Treasurer:	杉本 浩一	(ミライズテクノロジーズ)

3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	武内 良典	(近畿大学)
Vice Chair:	井上 馨	(同志社大学)
Secretary:	木村 真之	(京都大学)
Treasurer:	塩見 準	(京都大学)

4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	何 一偉	(大阪電気通信大学)
Vice Chair:	内藤 出	(新居浜工業高等専門学校)
Vice Chair:	藤森 和博	(岡山大学)
Secretary:	山本 綱之	(津山工業高等専門学校)
Treasurer:	山本 尚武	(パナソニック)

5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	和田 友孝	(関西大学)
Vice Chair:	林 海	(大阪府立大学)
Secretary:	熊本 和夫	(大阪工業大学)
Treasurer:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)

6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	和田 敏裕	(三菱電機)
Vice Chair:	新谷 道広	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	小西 一暢	(パナソニック)
Secretary:	河村 岳	(パナソニック)
Treasurer:	今川 隆司	(立命館大学)

7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	真田 篤志	(大阪大学)
Vice Chair:	檜橋 祥一	(摂南大学)
Secretary:	河合 正	(兵庫県立大学)
Secretary:	金谷 康	(三菱電機)
Treasurer:	石野 祥太郎	(古野電気)
Treasurer:	三谷 友彦	(京都大学)

8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	小西 毅	(大阪大学)
Vice Chair:	戸田 裕之	(同志社大学)
Secretary:	高橋 和	(大阪府立大学)
Treasurer:	大和屋 武	(三菱電機)

9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	中村 哲	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
Secretary:	吉野 幸一郎	(理化学研究所)
Treasurer:	大谷 大和	(エーアイ)

10. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	長谷 智弘	(龍谷大学)
Vice Chair:	後藤 富朗	(名古屋工業大学)
Secretary:	Thi Thi Zin	(宮崎大学)
Treasurer:	西村 良太	(徳島大学)

11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	鷹羽 浄嗣	(立命館大学)
Vice Chair:	大塚 敏之	(京都大学)
Secretary:	丸田 一郎	(京都大学)
Treasurer:	桜間 一徳	(京都大学)

12. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

Chair:	平木 英治	(岡山大学)
Vice Chair:	笠 展幸	(岡山理科大学)
Secretary:	梅谷 和弘	(岡山大学)
Treasurer:	麻原 寛之	(岡山理科大学)

13. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

Chair:	戸川 欣彦	(大阪府立大学)
Vice Chair:	平岡 耕一	(愛媛大学)
Secretary:	藤枝 俊	(大阪大学)
Treasurer:	宍戸 寛明	(大阪府立大学)

III. 2021 年関西支部 Student Branch 役員

1. 大阪大学 (<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)
Chair:	木村 駿	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Vice Chair:	松尾 快	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Treasurer:	福島 力也	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Secretary:	名富 太陽	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻

2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	辺 松	(京都大学 情報学研究科)
Mentor:	近村 啓史	(株式会社フィックスターズ)
Chair:	小野 龍輝	情報学研究科
Vice Chair:	永井 健太郎	情報学研究科
Treasurer:	下里 京平	情報学研究科
Secretary:	有働 岬	情報学研究科

3. 立命館大学 (<http://www.ieee.se.ritsumei.ac.jp/J/main.html>)

Counselor:	孟 林	(立命館大学 准教授)
Chair:	Muhammad Anas Bin Norizan	理工学研究科 電子システム専攻
Vice Chair:	蔭山 亨佑	理工学研究科 電子システム専攻
Treasurer:	中田 和俊	理工学研究科 電子システム専攻
Secretary:	鈴木 駿成	理工学研究科 電子システム専攻

4. 奈良先端科学技術大学院大学 (<http://ieee-sb-naist.github.io/>)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	Niu Zhaofeng	先端科学技術研究科
Vice Chair:	Mutinda Faith Wavinya	先端科学技術研究科
Treasurer:	Douha N'guessan Yves-Roland	先端科学技術研究科
Secretary:	Douha N'guessan Yves-Roland	先端科学技術研究科

5. 兵庫県立大学 (<http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html>)

Counselor:	上浦 尚武	(兵庫県立大学 工学研究科 電子情報工学専攻)
Mentor:	中嶋 宏	(オムロン株式会社)
Chair:	山本 侃利	工学研究科 電子情報工学専攻
Vice Chair:	中津 康平	工学研究科 電子情報工学専攻
Treasurer:	山本 侃利	工学研究科 電子情報工学専攻
Secretary:	元木 康太	工学研究科 電子情報工学専攻

6. 関西大学 (http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/)

Counselor:	梶川 嘉延	(関西大学 教授)
Mentor:	辻川 剛範	(日本電気 情報・メディアプロセッシング研究所)
Chair:	金山 祐太	理工学研究科システム理工学専攻
Vice Chair:	石倉 彰太郎	理工学研究科システム理工学専攻
Treasurer:	小手川 史晃	理工学研究科システム理工学専攻
Secretary:	吉川 碧	理工学研究科システム理工学専攻

7. 同志社大学 (<https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	高橋 康人	(同志社大学 准教授)
Chair:	長山 尚史	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Vice Chair:	小糸 泰吉	大学院理工学研究科 情報工学専攻
Treasurer:	辻川 昌太郎	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Secretary:	丸山 右京	大学院理工学研究科 情報工学専攻

IV. 2020 年 活動報告 および 2021 年活動計画

1. 総括

【2020 年活動報告】

LMAG、WIE、YP の各 Affinity Group の活動では、仙台 YP との共催による博士課程のキャリアを語る会のオンライン開催や MAW2020、SYWL Workshop へのオンライン参加により、他支部との交流を深めた。WIE シンポジウムや TPC 主催の技術講演会はオンラインで開催する一方、NC によるシニアメンバー昇格に向けた講習会は感染予防対策を徹底した上での集合開催とするなど、新型コロナウイルス感染症の拡大という困難な状況においても、イベントを活発に実施し、地域活動の拡大、充実に努めた。

【2021 年活動計画】

2021 年は、引き続き新型コロナウイルスのため、イベントの実施には厳しい状況が継続すると想定される。2020 年に企画・実施した各種イベントのオンライン開催や Educational Activities など Committee、Affinity Group における新たな取組みを定着させるとともに、支部活動の活性化と会員増につながる新規イベントなどを継続検討する。

そのため、Chapter 活動、Student Branch 活動、Affinity Group 活動により一層、積極的な支援をおこなう。

2. 総会

【2020 年活動報告】

2020 年 2 月 27 日(木)に関電会館において、参加 46 名により 2020 年総会を開催。各 Committee、Chapter、Affinity Group から、2019 年の活動実績、2020 年の活動計画を報告。関西支部より 2019 年活動の総括、2019 年決算、2020 年予算、Bylaws 改定を報告し承認された。

総会にあわせて、Young Professionals 賞、学生研究奨励賞授賞式、関西支部メダル授与式(新 Senior Member)、関西支部メダル授与式(歴代貢献者)、新フェロー紹介を実施した。



Young Professionals 賞



学生研究奨励賞受賞者



関西支部メダル授与式(新 Senior Member)



関西支部メダル授与式(歴代貢献者)

【2021年活動計画】

2021年は2月18日(木)13:00~17:00の予定で、定例総会を実施する。

3. 理事会

【2020年活動報告】

第1回理事会 1月21日(火)中央電気倶楽部3階315会議室(参加17名)

2020年活動・予算計画の確認、関西支部総会準備

第2回理事会 2月27日(木)関電会館第5・6会議室(参加15名)

関西支部総会準備(段取り、資料の最終確認)

第3回理事会 5月20日(水)~27日(水)、書面開催(参加21名)

Executive Nomination Committee 設立、第1回JC理事会報告、
各種会議、イベントの準備・実施状況共有

第4回理事会 7月29日(水)、オンライン開催(参加18名)

Executive Nomination Committee 委員決定、Educational Activities 審議、

第5回理事会 9月17日(木)、オンライン開催(参加19名)

2021/22 選挙立候補者審議、2021年JC Section 支援申請審議

第6回理事会 12月14日(月)、オンライン開催(参加21名)

2021年理事会体制について、2020年YP賞、学生研究奨励賞承認
2021年活動計画、2020年会計報告/2021年予算案

【2021年活動計画】

総会 2021年2月18日

2021年は年間5回の理事会を計画する。

4. 関西支部主催講演会

【2020年活動報告】

Technical Program Committee (TPC)の企画により、年間3回の見学会・技術講演会を開催した。詳細についてはTPCの項目に記載。

【2021年活動計画】

2021年は年間5回程度の講演会を開催し、支部活性化を図る。

5. Region 10 Meeting

【2020 年活動報告】

2020 年 3 月 7 日(土)の日程でオンライン開催された Region 10 Meeting に、関西支部より杉江 Chair が参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努めた。

【2021 年活動計画】

2021 年 3 月 7 日～8 日の R10 Meeting(Web Meeting にて実施)に、関西支部より例年通り参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努める。

6. MAW / Japan SYWL Workshop

【2020 年活動報告】

2020 年 10 月 16 日(金)～17 日(土)に広島において開催された MAW 2020 および Japan SYWL Workshop に関西支部から LMAG より 1 名、WIE より 1 名がオンライン参加。情報共有及びネットワークの構築を行った。

【2021 年活動計画】

2021 年も、継続して活性化するため、Student/YP/WIE/LMAG について上位組織で開催される活動への参加を積極的に支援する。

7. 協賛会議

【2020 年活動報告】

- ・第7回電子デバイスフォーラム京都
主催: (一社)日本電子デバイス産業協会 (NEDIA)
日時: 2020 年 10 月 29 日(木)～10 月 30 日(金)
場所: 京都リサーチパーク(KRP)
- ・令和2年 電気関係学会関西連合大会
主催: 電気学会 関西支部
電子情報通信学会 関西支部
映像情報メディア学会 関西支部
電気設備学会 関西支部
日時: 2020 年 11 月 14 日(土)～11 月 15 日(日)
場所: 立命館大学びわこ・くさつキャンパス

8. 情報発信

【2020 年活動報告】

関西支部 Web ページ

下記ホームページで、技術講演会の案内等情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。

【2021 年活動計画】

関西支部 Web ページ

関西支部のホームページで、各種情報を発信して、会員メリットの向上に努める。

Newsletter もタイムリーに発信をしていく。

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメールリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れる。

【Newsletter の発行】

No.37(2020 年 3 月 12 日発行)：総会の様子、YP 賞・学生研究奨励賞の受賞者紹介、新 Senior メンバー・新 Fellow の紹介、技術講演会等の開催情報を掲載。

No.38(2020 年 9 月 18 日発行)：2021/22 年支部役員選挙、YP 賞、学生研究奨励賞募集のお知らせ、技術講演会、WIE シンポジウム、博士課程のキャリアを語る会の開催情報を掲載。

各 Committee/Affinity Group からの報告

a. Membership Development Committee

【2020 年活動報告】

2020 年は 2 回の MDC&SAC&YP Joint Workshop を開催した。第 1 回 6 月 17 日、第 2 回を 12 月 14 日に、新型コロナウイルス感染症の現状を鑑み、いずれもオンラインによるウェブ開催とした。MDC、SAC、YP に参加している各委員の組織等を通じて IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SAC や YP と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。

その他の主な活動として、通常会員の会員数の減少を食い止めるために Renew のし忘れを防ぐことを目的に、5 月と 10 月に Renew 案内メールを送信して更新を促した。さらに、引き続き、シニアメンバーへのアップグレード申請がスムーズとなるよう支援を継続するとともに、IEEE のアップグレード申請のための Web サイトが更新されたことで、これにあわせて申請方法の邦訳をこれにあわせて新しくした。また、Student member 入会手続きについても申請方法の邦訳を併せて公開し、Student member についても一層の増加を図った。

2020 年 12 月 14 日現在、会員数は 2,134 名であり、過去 10 年間で最も少ない水準であった。特に学生会員の減少が顕著であり、これは国内研究会、国際会議がすべてオンライン開催で行われているため、新たな IEEE 入会のメリットの訴求が難しくなっているためだと思われる。また、2019 年から開始している国内研究会、技術講演会における広報パンフレットおよびノベルティグッズを配布しての会員勧誘活動は、オンライン開催のため実施できていない。

【2021 年活動計画】

2021 年も継続して、会員増に向けた活動を行う。これまでと同様に MDC/SAC/YP と連携しながら、特に Senior member と学生を中心とする若手の新規会員の増加に向けた活動を行う。

- ・ MDC/SAC/YP Joint Workshop を年 2 回（5 月頃、11 月頃）開催し、Committee 間の情報交換、連携を通して会員数増に向けた活動を行う。
- ・ アップグレードの勧誘と申請サポートとを通して、Senior member の一層の増加を目指す。Committee、Chapter 役員の Senior member 昇格の枠組みを構築し、役員の Seniro member 昇格の道筋を作る。
- ・ 学会や研究会における広報活動（IEEE のポスターやパンフレットの配布等）により、IEEE への入会勧誘を行う。しかし、オンライン開催によりこれが困難である場合は、ポスター・パンフレットを MDC 役員の所属機関に配布することで広報活動を実施する。
- ・ 年 2 回の Renew 促進のメールを送信して Renew 忘れによる会員減を防止する。
- ・ IEEE の企業会員増に向けて、企業の業績に関する表彰が多く認められている IEEE Milestone に関する講演会を企画する（9～10 月頃予定）。

b. Nominations Committee

【2020 年活動報告】

2020 年 3 月 1 日締め切りの 2021 年 Fellow Nomination に際し、関西支部から数名の Fellow 推薦を行なった。その結果、3 名の Fellow 昇格となった。

2020 年 11 月 21 日、兵庫県立大学情報科学キャンパスにおいて、「IEEE シニアメンバーへの昇格のための勉強会・講演会」を実施した。8 名の参加であった。

【2021 年活動計画】

2021 年は、2021 年 3 月 1 日締め切りの 2021 年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼するとともに、現 Senior に対しても Nominee となることを勧める。更に、IEEE シニアメンバーへの昇格のための勉強会・講演会を実施する。

c. Student Activities Committee

【2020 年活動報告】

SAC では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行った。

- (1) 既存 7 大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学)の Student Branch (SB)を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、SB 間の情報交換の促進、等の活動を行った。
- (2) MDC と SAC、YP と合同で Workshop をオンラインで開催(6 月、12 月)し、連携して会員の増強、YP 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (3) 各 Student Branch の Chair を集め Student Branch Chair Meeting をオンラインにて開催した(6 月 6 日)。前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行うとともに、互いに交流を深めた。
- (4) 2016 年からスタートした SB 研究交流会について、昨年度は開催しなかったが、今年度は 9 月 7 日に京都大学の主催でオンライン実施した。各 SB からの研究発表が行われた。
- (5) SB 全体のイベントとして、立命館大学 English Presentation Competition を 1 月 9 日に LMAG、YP の共催でオンライン実施した。優秀発表者に IEEE 関西支部 SAC および LMAG から表彰状を授与した。
- (6) SB と LMAG との共同企画として例年企画しているブレインストーミング大会であるが、関西大学の主催で企画をしていたがコロナ禍の影響により開催を見送った。
- (7) AC と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。詳細は Award Committee 報告の項を参照のこと。
- (8) 12 月 20 日に奈良先端科学技術大学院大学の主催により、年末交流会(引継ぎ会)をオンライン実施し、各 SB の活動状況の報告および次年度の活動計画について議論した。

【2021 年活動計画】

- (1) Student Branch(SB)の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、SB の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、その他の大学、高専を対象に新 SB の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB の協力により、SB が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 SB を中心に、交流会を引き続き開催し、SB 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すとともに、SB 間の協力体制を強化することを目指す。また、LMAG、YP、WIE の各 AG と協力してさまざまなイベントを実施する。さらに、各企画の学生会員増への貢献度を精査する必要がある。

(3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を(AC と共同により)継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

【2020 年活動報告】

以下の表に示す計 3 回の技術講演会を実施した。

	開催日	場 所	講 演 者	参加者数 (IEEE 会員)	共催・協賛組織名
第 110 回	2020 年 1 月 31 日	テーマ: 量子コンピュータの現状と可能性			
		キャンパスプラ ザ京都	藤井啓祐教授(大阪大学 大学院基礎工学研究科)	20(14)	
第 111 回	2020 年 9 月 11 日	テーマ: 5G とその応用への取組みについて			
		WebEX による オンライン形式	浅野弘明氏(パナソニック (株)コネクティッドソリュー ションズ社イノベーションセ ンター先端通信技術研究 部 部長)	76 (22)	
第 112 回	2020 年 12 月 4 日	テーマ: 不確実性を増すこれからの時代の R&D とイノベーション			
		WebEX による オンライン形式	水落隆司氏 (三菱電機 (株) 開発本部役員技監)	21 (14)	

コロナ禍の影響で、3 月末～7 月末まで十分な活動ができず技術講演会の開催が見送られる状況が続いたが、8 月以降 WebEX を用いたオンライン形式での技術講演会を 2 度開催することができ、対面形式と比べて同等以上の参加者数を達成することができた。

【2021 年活動計画】

技術講演会の開催を主たる活動とする。2020 年はコロナ禍の影響で活動が一部制限されたが、2021 年は例年通り 5 回程度(一部 WebEX によるオンライン形式を含む)の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、他団体との共催などにも積極的に取り組む。

特に特定の Chapter に属さないような横断的/学際的分野、技術の方向性、イノベーション、グローバル化といった内容の講演会も積極的に開催する。

e. Awards Committee

【2020 年活動報告】

昨年に引き続き、学生会員ならびに若手会員を対象として、「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」の募集を行った。本年度は、6 月に募集を開始し、10 月 2 日に応募を締め切った。その後、応募者の支援資料を 10 月 30 日までに受理し、当委員会による選定の後、12 月 14 日の支部理事会において「大学や研究所の若手会員」部門ならびに「企業の若手会員」部門のそれぞれで 1 名ずつの受賞者を決定した。

また、「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、これまでと同様に継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。Young Professionals 賞と同様に、6 月に募集を開始し、10 月 2 日を応募期限として応募者を募った。当委員会と SAC による選定の後、12 月 14 日の支部理事会において 9 名の受賞者を決定した。

【2021 年活動計画】

2021 年は、従来からの厳正な選考過程の実践を継続するとともに、これまで以上に応募者の増加に努める。「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」ならびに「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」を、それぞれ若手会員と学生会員の増強施策として位置づけ、関西支部が関与する種々の研究集会ならびにメーリングリストにおいて、賞の存在をより積極的に周知する。YP 賞に関しては、SAC とも協調し、Student Branch での活動等 IEEE への貢献が顕著な学生に、同賞への応募を積極的に呼びかける。

f. Chapter Operations Committee

【2020 年活動報告】

現存 Chapter の活動支援を行っている。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して進めている本部へのオンライン書類提出、Chapter 支援費、国際会議実施での MOU 締結手続き、ソサイエティ別 Section 所属会員数の提供、petition 作成支援等である。計 2 回の JC COC 参加を通じて関連最新情報を把握し、COC 各種申請のオンライン化による業務改善について議論を行い、まずは申請頻度の高い Chapter 支援費申請、ならびに Award 登録をオンライン化することを確認した。また、重要議題の一つである Chapter 支援費の Section 配下への移行について、上記オンライン申請システムが軌道に乗り次第、改めて検討することを確認した。

【2021 年活動計画】

2021 年は、引き続き関西支部内各 Chapter 活動の活性化に努める。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して、各 Chapter との情報共有を綿密に行う。特に、上記オンライン申請システムの広報・サポートを積極的に行うとともに Chapter 支援費の Section 配下への移行など、Japan Council の運用制度の改訂に関する動向を引き続き把握し、迅速なフィードバックに努める。また、IEEE 本部へ行く各種報告を通して、定常活動の維持につ

いて各 Chapter に再確認する。また、Kansai Section 下の各 Chapter に対し、MOU 締結などに関連する手続を浸透させるとともに、改善事項などがあればその対応を図る。

g. Life Members Affinity Group

【2020 年活動報告】

活動 8 年目として LMAG 活動をいっそう活性化させるべく、例年同様に 3 回の現地講演会 & 見学会を技術講演会の一環として企画し始めたが、COVID-19 の感染拡大により現地講演会は開催しづらくなった。

また、役員会は 2020 年度にはオンラインで 4 回開催した。事前の接続テストののち、6/10(水)には、ZOOM による初の役員会を開催し、次期役員体制について論議した。7/24(金)には、JC からの求めに対応すべく EDUCATIONAL ACTIVITY について web-ex によるオンライン役員会論議した、9/25(金)には、今年に新 LM になった方々に声をかけてオンライン懇親会を開催し、親交を深めた。11/19(木)には新旧役員により今年の活動の振り返りと来年の活動計画を論議した。



12/19(土)には、東京、名古屋、仙台支部の LMAG と LMAG 関西との合同の役員会を開催した。コロナ禍下でのオンライン役員会により地域の境を越え、初の 4LMAG 合同役員会で各 LMAG の活動に関して有意義な情報交換が行えた。



2016 年に新たな活動として開始した気さくな LMAG サロンの継続を今年も行う予定であったが、実施に至っていない。

他組織との連携としては、9/26(土)開催の WIE シンポジウム(講演とワークショップ)、12/5(土)

開催の東京・信越 JOINT SECTION WIE キックオフイベントにもオンライン参加した。

SB 連携では、SB 英語プレゼン大会に参加して今年もこの大会の優秀賞の一つとして「LMAG Kansai Award」(表彰状及び副賞賞金)を設け 2 名の学生に授与する予定であった。SB 英語プレゼン大会は、2021/1/9(土)にオンライン開催された。また SB 主催のブレインストーミングの会の企画、運営に協力し、テーマの議論に LMAG から数名のメンバも参加する予定であった。

関西地域の外では、9/下旬に開催された R10 SYWL 2020 virtual. congress にも役員3名がオンライン参加した。同シンポジウムにおいて開催された写真コンテストには、小林 VICE-CHAIR が信楽の MU レーダ現地講演会での写真で応募し、1st prize の栄誉を得た。



IEEE マイルストーン MU レーダ施設にて

LMAG-Tokyo 設立 10 周年の記念シンポジウムが 10/8(木)に開催され役員2名がオンライン参加した。10/16-17 に広島で開催された MAW(Metropolitan Area Workshop)にオンライン参加した。

2021 年、2022 年の役員新体制は、9 月中に公示して 11 月初めに新体制が確立した。

NEWSLETTER 発行については、英語が公用語の学会として、英語にて NEWSLETTER を 12 月に発行した。

【2021 年活動計画】

2021 年は活動 9 年目として、新役員体制のもとでオンラインイベントを含めて活動をより活発化させる。一昨年 2019 年と同様に関西支部 TPC、WIE などと連携して数回の講演会(現地講演会も含む)を開催する。LMAG サロンの活動を定着させることも大きな目標である。2021 年にはオンラインの活用により地域の制約を超え他支部 LMAG と連携し、より広範なテーマにより活発なサロン形式を目指したい。また、YP や SB、WIE、他支部 LMAG との連携を積極的に進める。具体的には、連携先の諸活動に経験豊かな LMAG メンバも参加して、今年も LMAG 賞の授与をするなど、幅広い視点から IEEE 関西の活動を支援する。

これらの活動を「Kansai-LMAG Newsletter」として公開し、広く参加を呼び掛けるとともに活動報告する。

h. WIE Affinity Group

【2020 年活動報告】

(1) Kansai WIE シンポジウム

2020 年は世界が新型コロナウイルスの流行の影響を受けた、WIE シンポジウムもその影響を受けたことには変わりはなく、開催するのかどうか？また開催するとしてもどのような形態にするのかなど 4 月以降大いに悩むことになった。役員会や実行委員会で検討を重ねた結果、当初予定していた通り 9 月 26 日(土)にオンラインにて「IEEE Kansai WIE シンポジウム 2020 – Enjoy Science, Technology and Your Life!」開催することと決まり、開催した。Young Professionals (YP) AG, 大阪大学 StudentBranch, 兵庫県立大学 StudentBranch, 立命館大学 StudentBranch, 京都大学 StudentBranch, 関西大学 StudentBranch, 同志社大学 StudentBranch, 奈良先端科学技術大学院大学 StudentBranch に共催いただき、特に広報に関して協力し準備を行った。

シンポジウム前半では、3 名の女性技術者・研究者による以下の講演が行われた。

- 「IT の世界で一人の人間として働くということ」(株式会社万葉 鳥井 雪 氏)
- 「企業研究員 2 年目で振り返る文系から理系になった私のキャリア選択」(日本電信電話株式会社 中原 英里 氏)
- 「Young Women in STEM Career Development: A Thailand's Perspective and Experience」(Chulalongkorn University Supavadee Aramvith 氏)

シンポジウムの後半は、Zoom のブレイクアウトルームを活用して全員参加型のグループトークを実施した。「科学とテクノロジーと人生を楽しむためのヒント」をテーマにグループごとに意見交換を行ったのち、各グループでの議論を参加者全体で共有した。

シンポジウムへの参加者は 41 名であった。今回はオンライン開催としたこと、また IEEE でも活発に活躍されている Supavadee 先生にご講演いただいたこともあり、タイからの参加者や留学生の参加者も例年に比べて非常に多かった。オンラインでの開催で参加者数の現象が危惧されたが、参加者数は昨年と同数であった。本シンポジウムは WIE AG の年間活動の軸となるイベントとして、開催形態がオンライン開催となることがあったとしても、「関西の」女性技術者・研究者、理系の女子大学院生・学部生、そして理系進路選択を考える女子高校生のエンパワメントを目的として継続していく予定である。



WIE シンポジウム 2020 参加者集合

(2) 役員会

第 1 回(1/31@梅田)、第 2 回(6/12@オンライン)、第 3 回(8/21@オンライン)、第 4 回(9/2@オンライン)、第 5 回(9/15@オンライン)、第 6 回(9/26@オンライン・一部メンバーNAIST)、第 7 回(12/29@オンライン)を開催し、主に運営体制の検討と WIE シンポジウムの準備および反省を行なった。

(3) 協賛およびその他の活動

- ・ 5/15 WIE Online Gathering “Current Situation of COVID-19 - Japan vs Others” に参加
- ・ 6/20 Japan WIE Web セッションに参加
- ・ 8/27 電気関係学会東北支部連合大会特別企画「女性研究者たちが伝える研究の魅力 (Sendai WIE 企画)」にて Chair が講演
- ・ 9/27 IEEE 関西支部 YP 主催 博士課程のキャリアについて語る会 共催
- ・ 第 12 回 IEEE キャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテストを実施(全国の YP/WIE AG との共催)
- ・ 10/17 IEEE Japan SYWL in Hiroshima (and Online)を IEEE Japan SYWL Workshop 実行委員会と共催, 参加
- ・ 12/5 IEEE Tokyo/Shin-etsu Joint Section WIE キックオフイベント 共催

【2021 年活動計画】

2021 年は、WIE AG 設立 8 周年となる。下記施策により、活動のさらなる活発化を図る。

- ・ Kansai WIE の活動を紹介するパンフレットを作成し、活動の広報を強化する。
- ・ WIE 活動に賛同するメンバーを積極的に募り、運営体制を強化する。
- ・ 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催する。理系の女子大学院生や学部生の近い未来のキャリア支援、さらに理系進路を考える高校生への進路選択の一助となるような内容も含めることで、参加者層を拡張する。
- ・ Student Branch, YP, LMAG, JC WIE, 他学会の女性支援関連活動などと連携しながら、関西での WIE 活動を推進する。

i. Young Professionals Affinity Group

【2020 年活動報告】

2020 年は、昨年度の報告以上に、WIE、SAC、MDC と連携したイベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進するためのイベントを企画、共催することができた。特に、東京 YP、名古屋 YP、仙台 YP とともに密接な連携を行い、関西支部の WIE、SAC、MDC とともに連携し、以下の活動を行った。

- 1) MDC/SAC/YP Joint WS を開催 (6/16、12/14)
- 2) YP エッセイコンテスト共催(9/11 応募締め切り、11/28 表彰式)

- 3) 関西 WIE シンポジウムの共催 (9/26、オンライン)
- 4) 博士課程のキャリアについて語る会 (9/27@オンライン): 詳細は以下を参照。
- 5) IEEE SYWL (10/16)
- 6) TENCON2020 (11/16-20)
- 7) Student Branch 英語プレゼンテーション大会共催 (1/9@オンライン)
- 8) Kansai YP AG meeting (定期開催)

関西支部 YP 主催イベント「博士課程のキャリアについて語る会」

講演会の概要:

現役の博士後期課程の学生, および博士学位取得後に大学や企業に就職された方々にご講演いただき, 博士前期課程の学生が博士後期課程に進学する動機付けを狙いとする。また, 博士後期課程への進学者は, 学会発表の機会も多くなり, IEEE への会員登録をはじめ, IEEE の参加継続につながることを想定される。それにより, YP の活性化につながることを期待されるイベントである。

日時: 2020年9月27日(日)

場所: オンライン開催 (Zoom 使用)

主催: IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group

共催: IEEE 関西 WIE (Women in Engineering) Affinity Group

IEEE 仙台 YP (Young Professionals) Affinity Group

参加者: 参加登録人数 53 人 (講演者 4 名, 運営者 3 名を含む)

講演内容:

ご講演(1)「博士後期課程への進学について」

村上 正樹 様 (慶應義塾大学)

ご講演(2)「博士後期課程修了後, アカデミックポジションに就職するキャリアについて」

吉田 嵩 先生 (東京都立産業技術高等専門学校)

ご講演(3)「博士後期課程在学しながら, 企業に就職するキャリアについて」

北川 冬弥 様 (パナソニック株式会社)

ご講演(4)「博士前期課程修了後, 企業への就職と博士後期課程への進学について」

柏 祐太郎 先生 (九州大学)

【2021 年活動計画】

2021 年も引き続き WIE、SAC、MDC と連携したイベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進していく。特に、東京 YP、名古屋 YP、仙台 YP とともに密接な連携を行

い、交流イベントを増やす予定である。遠隔地で開催されるイベントに参加する YP 会員には交通費などの補助を行い、より活発な交流を支援する。

IEEE 関西支部会員の増加は重要な課題であると考えており、特に YP となる大学院学生と新規若手会員の増加に向けて各 Committee と協力して対策を検討する。年2回行っている Joint WS での議論から、学生や企業の若手研究者にとって IEEE 会員となるメリットが見えにくくなっているという点が問題であると考えている。この課題に対して、2019 年から開催している「博士課程のキャリアについて語る会」などのイベントを今年も企画し、2021 年は Student Branch と 2020 年以上に密に協力し、開催の準備を進める。

j. Educational Activities

【2020 年活動報告】

2020 年後半に JC より各支部から担当を出すよう依頼があり、田邊 Past TPC Chair が新たに関西支部における EA Chair に選出され活動を開始した。10/19, 11/27 に JC、各支部の EA 担当が集まりウェブ会議が開催され、今後の活動の方向性について議論した。また、12/4 には TPC 技術講演会を共催した。

EA(Educational Activities)は、IEEE 本部のある米国では以前から活発に活動をしており、IEEE 会員、会員以外の IEEE 技術に関心のある一般、高校生などに向け、関連技術教材の作成、無料の技術講演会、ワークショップなどを開催する教育的啓蒙活動を行っている。米国で作成した教材は、非常によく出来たものであるが、使用言語が英語であり、自動翻訳では十分に意味が取れない難点があるため日本語化はされていない。

そのため、Resion 10 の中でもインドなども含め、ローカルの言語での EA 活動が呼びかけられており、今回、福田 IEEE President の強い働き掛けもあり、JC 取りまとめで活動を興した。

【2021 年活動計画】

関西支部 EA として独自に教材を作成することはマンパワーもあり行わない。高校生などにとっても、技術を英語で学ぶことは有益であり、本部の教材で内容的によく出来ているものは、英語であっても積極的に紹介していく。

当面、TPC, WIE, LMAG, YP などの協力をお願いし、JC、他支部とも協力し、活動の立ち上げを行っていく。会員各位のご協力をおお願いすると同時に、活動に対する提案をお待ちしている。

9. Chapter 活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

【2020 年活動報告】

1 月 28 日に龍谷大学響都ホールにて"トポロジカル量子コンピューティング、強誘電体を用いたトンネル接合メモリ"に関する技術報告会を開催した。参加者は 21 名、うち IEEE 会員は 10 名であった。

11 月 27 日に京都工芸繊維大学 (Zoom によるオンライン開催)にて"第 20 回関西コロキウム電子デバイスワークショップ"を開催した。これは過去一年(2019 年 4 月～2020 年 3 月)の主要論文誌の中から、関西に関係のある技術者による優れた論文を選定し、著者本人に講演してもらうもので、8 編の論文を選定し、参加者 83 名での開催となった。

11 月 27 日に京都工芸繊維大学 (Zoom によるオンライン開催)にて国際会議の"18th International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2020) Satellite Event"を第 20 回関西コロキウム電子デバイスワークショップと同時開催した。コロナウイルスの影響により、例年行ってきた IMFEDK2020 を中止することとしたが、若手研究者への発表機会を提供するために IMFEDK2020 の Satellite Event として開催した。発表者 22 名、参加者 83 名での開催となった。

12 月 10 日に京都工芸繊維大学 (Zoom によるオンライン開催)にて第 2 回電子デバイス技術に関連するラウンドテーブルワークショップを開催した。企業の技術者 3 名を招待し、講演いただいた。参加者 11 名での開催となった。

【2021 年活動計画】

2021 年もコロナウイルスの状況を鑑みながら、引き続き技術講演会など中心にオンラインか現地開催、もしくは併用での活動を展開する。特に若手研究者を主な対象とした学会や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。具体的には以下の通り計画している。

日程は未定であるが、下記の技術講演会、ワークショップ、国際会議を予定している。

毎年開催している電子デバイスの材料からデバイス特性まで、それらの分野で卓越した成果を上げている研究者を招待して講演いただく技術講演会を開催する予定である。

"第 21 回関西コロキウム電子デバイスワークショップ"を開催する。講師には国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂く予定である。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。

国際会議 "19th International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2021)" を龍谷大学アバンティ響都ホールもしくはオンラインでの開催を予定している。例年通り、招待講演 (Keynote および Invited)、一般講演およびポスター講演 (ショートプレゼンテーション付き) を実施する。学生や若手研究者を中心に参加頂き、会員の活発な技術交流と教育の場を提供する。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。

また一昨年度から開催している第3回電子デバイス技術に関連するラウンドテーブルワークショップを開催する予定である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

【2020年活動報告】

2月16日のISSCC2020にて、企業から優れた論文を発表することをマネジメント面で促進し、SSCSの活動に対して多大な貢献を継続している方に対し、IEEE SSCS Japan Chapterと共催で、IEEE SSCS Japan Industry Contribution Awardを実施し、2名を選定、表彰した。

5月11日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、“LSIとシステムのワークショップ2020”をオンラインで開催した。参加人数は376名であった。

7月6日～8日にオンラインで開催された、d.lab-VDECリフレッシュ教育VLSI設計教育コース(主催:東京大学d.lab-VDEC)に協賛した。参加人数は全コース合計で126名であった。

7月25日～26日にオンラインで開催された、ICD夏の合宿2020(主催:電子情報通信学会集積回路研究会)に協賛した。参加人数は34名であった。

8月6日～7日にオンラインで開催された、集積回路研究会(主催:電子情報通信学会集積回路研究会)に協賛した。参加人数は44名であった。

9月3日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、アクセラレーション技術発表討論会をオンラインで開催した。参加人数は、45名であった。

9月17日にオンラインで開催された、D2Tシンポジウム(主催:東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター)に協賛した。参加人数は189名であった。

9月25日～26日に、東京大学d.lab-VDECと共催でd.lab-VDEC Designer's Forum 2020をオンラインで開催した。参加人数は、38名であった。

12月11日に、IEEE SSCS Japan Chapterと共催で、IEEE SSCS Distinguished Lecturerの高宮真教授(東京大学)、本村真人教授(東京工業大学)をお招きして、高宮真教授には”Injecting Digital into Power Electronics: Programmable Digital Gate Driver IC for Power Transistors”という題目で、本村真人教授には“Reconfigurable and Domain-Specific Hardware for AI Computing”という題目で技術セミナーをオンラインで実施した。出席者は81名であった。

【2021年活動計画】

2021年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。対面でのイベント開催が困難であることが予想されるため、オンラインイベントを積極的に開催するとともに関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、協賛金とAwardを出し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

【2020 年活動報告】

2020 年は、COVID-19 の影響により当初予定していた技術講演会が実施できず、技術講演会の協賛 1 件のみの実施となった。詳細は以下のとおりである。

・11 月 21 日～22 日にオンライン形式にて開催された、第 63 回自動制御連合講演会（主催：日本機械学会ほか）に協賛した。

以上、2020 年に関しては、社会の平常状態への回復をまって技術講演会等の実施を検討していたところ感染の第 2 波等があり、情勢の変化に対応した活動という観点からは反省すべき点があった。今後は SNS 等を活用するなど、役員間の連絡を密として、会員の益となるような CASS 関西チャプターの活動の実施に努めたい。なお、実施した講演会や今後の予定については、詳細を後述の URL に掲載している。

【2021 年活動計画】

2021 年は、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、学生や若手研究者・技術者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することも検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

【2020 年活動報告】

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動を進めた。本年は、主催 5 件、協賛 1 件の技術会議を実施した。

【主催技術会議】

1. 1 月 23 日に、サンポートホール高松にて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催し、松本操一氏（島田理化工業株式会社）に「電波望遠鏡用大型アンテナ開発の発展と歩み」と題してご講演を頂いた。
2. 2 月 10 日に、大阪電気通信大学 駅前キャンパスにて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催し、村田博司教授（三重大学）に「ミリ波帯アンテナ電極光変調器と 5G 無線システムへの応用」と題してご講演を頂いた。参加者総数は 24 名であった。
3. 8 月 21 日に、オンラインにて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催し、多賀登喜雄（関西学院大学）に「パス遮蔽数モデルの開発とストリートセル環境での 28GHz 帯

Massive MIMO 伝送方式のチャネル容量推定」と題してご講演を頂いた。

4. 11月26日に、オンラインにて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催し、内藤出教授(新居浜高等工業専門学校)に「複素偏波比による軸比評価における誤差と、ポアンカレ球による偏波表現」と題してご講演を頂いた。
5. 12月12日に、MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会をオンラインにて開催し、池田拓磨氏(パナソニック株式会社)に「マイクロ波によるセンサ給電技術」、石川峻樹氏(株式会社オリエントマイクロウェーブ)に「OMC におけるアンテナ設計開発」と題して、学生を対象とした実際の研究開発活動の体験をご講演いただいた。さらに、各大学、企業からのポスター展示を行い、活発な討論が行われた。

【協賛技術会議】

1. 電子情報通信学会 無線電力伝送研究会 ポスターコンテスト
テーマ: 渦中のワイヤレス給電 ～ナルト徳島の戦い～
2020年9月16日 オンライン開催

【2021年活動計画】

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動し、オンラインにおける IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を計画するとともに、次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップおよび MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予定している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

【2020 年活動報告】

2020 年は技術講演会を 1 回主催した。

[技術講演会]

10 月 28 日 Zoom オンライン開催

講演者： Terrence Wang, Co-founder and CTO, IOST FOUNDATION

演題： What essentially is blockchain?

参加者数：22

また、この講演会終了後に役員会を行った。

広報活動を活性化するため、Web サイトを活用して COMS Kansai Chapter に関する情報公開を行っている。活動計画や報告は下記の URL により提供している。

【2021 年活動計画】

関西圏における通信技術に関わる技術者との交流をはかり、産業界とのつながりをもちつつ活性化を行うことを目的として講演会を開催する。加えて、通信技術に関わる研究者に議論と交流の場を提供し、会員数増加を目標に活動を行う。昨年はコロナの影響で開催数が少なくなったが、今年はできるだけオンライン開催も含めて開催数を増やすようにする。春以降に講演者を招待し、IEEE COMS Kansai Chapter 技術講演会を主催する。また、他の研究講演会への積極的な共催をはかり、周知活動を行うことで参加数増加を促し会員獲得を目指す。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

【2020 年活動報告】

2020 年は 1 件の技術講演会の主催、2 件の協賛を行った。技術講演会の内容は、具体的に次のとおりである。

2020 年 8 月 28 日（金）に、オンラインに於いて、『新たな計算パラダイムを切り拓く量子技術及び量子計算機技術』というテーマで 2 件の講演を行った。1 件目は「量子計算機を活用する量子コンパイラ技術動向」と題して、日本 IBM の 松尾 惇士氏に量子計算を実施する際の量子回路設計の概要、量子回路のコスト計算および最適化を実現する量子コンパイラについてご紹介頂いた。2 件目は「量子暗号の研究開発動向と実装安全性理論の研究動向」と題して、三菱電機の水谷 明博氏に、量子暗号を実現するための安全性証明理論の構築、量子暗号ネットワークの開発動向、量子暗号装置の理想と現実のギャップを埋める理論研究についてご紹介頂いた。講演会では、92 名の参加登録を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

協賛としては、2020 年 5 月 11 日（月）にオンラインで行われた「LSI とシステムのワークショップ 2020」（主催 IEICE/ICD）への協賛を行った。また 2020 年 12 月 18 日（金）に、オンラインで行われた「IEEE Computer Society Tokyo/Japan Chapter ・スマートエスイー合同 Young Author Award 受賞記念講演会およびスマートエスイーコンソーシアム 2020 年度 技術研究交流フォーラム」（主催:IEEE CS Tokyo/Japan Joint、enPiT-Pro スマートエスイー、スマートエスイーコンソーシアム）への協賛を行った。

【2021 年活動計画】

2021 年は国内 IEEE Computer Society Chapter (Tokyo/Japan Joint、Fukuoka) および CASS Kansai/MDC Kansai との有機的な連携を進め、CS Kansai Young Author Award と技術講演会を中心に、学生や若手研究者を主な対象とした研究活動の奨励と質の高い技術情報提供を行い、積極的な IEEE 会員獲得を目標とする。また 2020 年は 2 件の協賛を行った。2021 年も関西地区を含め全国で開催される各種シンポジウム、ワークショップに積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

【2020年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 講演会（主催）「量子技術とマイクロ波」ワークショップ

（第一部）招待講演

演者／演題：根来 誠（大阪大学先導的学際研究機構）／量子技術とマイクロ波

演者／演題：増山 雄太（量子科学技術研究開発機構）／固体量子センサーとマイクロ波

演者／演題：田渕 豊（東京大学先端科学技術研究センター）／超伝導量子コンピュータとマイクロ波技術

演者／演題：中島 峻（理化学研究所創発物性科学研究センター）／半導体スピン量子コンピュータとマイクロ波

（第二部）パネルディスカッション

コーディネーター：真田 篤志（大阪大学大学院基礎工学研究科）

パネリスト：根来 誠（大阪大学先導的学際研究機構）

増山 雄太（量子科学技術研究開発機構）

田渕 豊（東京大学先端科学技術研究センター）

中島 峻（理化学研究所創発物性科学研究センター）

年月日／会場：2020年10月24日／オンライン開催（Zoom ウェビナー利用）

出席者数：68名（会員38名、非会員30名）

2. 第13回マイクロ波英語発表会（主催）

年月日／会場：2020年10月31日／オンライン開催（Zoom ウェビナー利用）

発表件数：25件／参加者数61名（会員20名、非会員41名）

3. IEEE AP-S Kansai Joint Chapter/MTT-S Kansai Chapter 合同若手技術交流会 2020（共催）

演者／演題：池田 拓磨（パナソニック株式会社）／マイクロ波によるセンサ給電技術

演者／演題：石川 峻樹（株式会社オリエントマイクロウェーブ）／OMCにおけるアンテナ設計開発

演題：パネルセッション

演題：ポスターセッション

年月日／会場：2020年12月12日／オンライン開催（Microsoft Teams 利用）

参加者数：89名（会員29名、非会員60名）

II. 選 奨

1. IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award

I. の 2. に記載の英語発表会で優れたプレゼンテーションを行った者に「Best Presentation Award」を授与した。

更に、上位2名に対して「IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award」を授与した。授与式は2020年12月20日にオンラインで実施。

2. IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award

MTT-S Japan/Kansai/Nagoya Chapter の合同で、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手(38歳以下)の研究者個人に「IEEE Microwave Theory and Techniques Society Japan Young Engineer Award」を贈呈した。また、その中から特に優れた論文の著者に対して「Michiyuki Uenohara Memorial Award」を進呈した。

※受賞者は以下に記載

https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/YEA_past_awardees/index.html

※対象者の要件等は以下に記載

<https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/index-j.html>

III. 協賛

1. 電子情報通信学会 マイクロ波研究会

2020年1月～2020年12月の期間中に9回開催

2. 第14回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム

—SDGsを目指す電磁波エネルギー応用研究と研究者の未来を拓く—

2020年11月5日～11月6日 オンライン開催

3. 2020 Microwave Workshops and Exhibition

2020年11月25日～12月28日 オンライン開催

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. 役員会

2020年1月11日／大阪大学豊中キャンパス 出席者数：11名

2020年3月14日／大阪大学 豊中キャンパス 出席者数：10名

2020年6月13日／Web会議 出席者数：15名

2020年8月29日／Web会議 出席者数：14名

2020年11月14日／Web会議 出席者数：13名

2020年12月5日／Web会議 出席者数：10名

2. 2020年IEEE関西支部総会

2020年2月18日／関電会館 Chapterからの出席者1名

3. 2020年IEEE Chapter Operation Committee

2020年6月19日 オンライン Chapter からの出席者数：1名

2020年11月5日 オンライン Chapter からの出席者数：1名

【2021年活動計画】

2021年は、コロナの状況を見据えながらオンライン開催を軸に、従来通り技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行う。技術領域としてはこれまでの戦力領域の枠組みに拘らず、新領域分野の開拓も検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。マイクロ波英語発表会での優秀な発表者2名に IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award を授与し、国際的に活躍できる若手技術者の育成を強化する。また、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手研究者3名に IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。Fellow および Senior Member への昇格候補者支援も、引き続き MTT-S Japan Chapter、MTT-S Nagoya Chapter と共同で行う。2014年より運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

【2020年活動報告】

Technical Meeting としては、1月30日（木）に、同志社大学 新町キャンパス 臨光館において、IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演を主催、加藤智行氏（富士通）から「波長変換技術の光伝送システムへの応用に向けた一検討」、竹永勝宏氏（フジクラ）から「空間分割多重伝送用マルチコアファイバ」という題目でそれぞれご講演いただいた。参加者は35名と盛会であった。これは、翌31日（金）も含む2日間にわたって同会場において開催された、電子情報通信学会 MWP/PN/EMT/PEM、電気学会 EMT 研究会との併催である。

11月7日（土）には、オンラインにて、「第6回 IEEE Photonics Society Kansai Chapter 英語発表会」を主催した。7名の学生による英語での発表のほか、Vishakha Shukla 氏（Aston 大）から“Erasmus Mundus Joint Master Degree - Photonic Integrated Circuits, Sensors and NETWORKS (PIXNET) -”、後藤 洋臣氏（島津製作所）から「企業研究者の仕事の一紹介」と題してご講演いただいた。学生の優れた発表1件に対しては Best Student Presentation Award と副賞を授与した（Chapter 支援費を利用）。参加者は30名であった。

11月20日（金）には、オンラインで開催された電子情報通信学会 OPE/LQE/PICS 合同研究会 Photonic Device Workshop 2020 に協賛、ビーム形成・ステアリング技術に関する

る招待講演 8 件、OPE/LQE 1 種研として併催したポスター発表 26 件があった。PDW2020 の参加登録者は 176 名であり、参加延べ人数(30 分以上の Zoom 接続)は 208 名と盛会であった。

Administrative Meeting としては、6 月、7 月、8 月、9 月、10 月、11 月にオンラインで役員会を開催、年間活動方針、Technical Meeting の企画、運営について協議した。

【2021 年活動計画】

2021 年も、技術講演会の開催を中心に活動を展開する。1 月 22 日には、例年通り電子情報通信学会 PN/MWP/EST/EMT/PEM 合同研究会と併催の形で特別講演イベントを主催するほか、年間を通じてさらに 2~3 件の技術講演会やワークショップを企画する予定である。特に、オンライン会議を活用して、海外の講師を招いた講演会（オンライン）も新しく企画予定である。また、好評であった学生英語発表会も開催する予定である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

【2020 年活動報告】

Distinguished Lecturer 講演会と Distinguished Industry Speaker 講演会を含む以下の 3 件の講演会を主催した。

1. Distinguished Industry Speaker 講演会（主催）
演 者：Dr. Akihiko Sugiyama (Yahoo! Japan)
演 題：Signal Enhancement in Consumer Products
年月日／会場：2020 年 11 月 27 日 オンライン開催（CISCO WebEX）
出席者数：43 名
2. Distinguished Lecturer 講演会（共催）
演 者：Prof. Andrea Cavallaro (Queen Mary University of London, UK)
演 題：Adversarial attacks on image classifiers
年月日／会場：2020 年 12 月 10 日 オンライン開催（Zoom）
出席者数：28 名
3. 講演会（主催）
演 者：Dr. Zhuo Chen (Microsoft Cloud & AI)
演 題：Speech Recognition and Diarization for Unsegmented Multi-talker Recordings with Speaker Overlaps
年月日／会場：2020 年 12 月 17 日 オンライン開催（CISCO WebEX）
出席者数：51 名

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter および IEEE SPS Sendai

Chapter との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award、IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award、および IEEE SPS Japan Young Author Best Paper Award を実施し、それぞれ 3 名、3 名、3 名の受賞者を選定・表彰した。

以下の Technical Meeting を協賛した。

1. 第 52 回ストカスティックシステムシンポジウム (SSS' 20)
2020 年 10 月 29 日～30 日
大阪大学・会津大学
2. 第 35 回信号処理シンポジウム
2020 年 11 月 4 日～6 日
オンライン開催

【2021 年活動計画】

引き続き、講演会を開催し、会員を中心とする国内外の学術交流を図る。

IEEE SPS Tokyo Joint Chapter、Sendai Chapter と連名で論文賞および学生賞の表彰を実施し、若手の研究を奨励するとともに、会員増加に努める。

これらの活動については下記 Web サイトで公開している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

j. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

【2020 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 国際会議(共催) IEEE LifeTech2020
年月日/会場:2020 年 3 月 10 日～3 月 12 日/メルパルク京都
出席者数:190 名(日本人 157 名、12 カ国 33 名)
発表件数:143 件(口頭発表 93 件、ポスター47 件、デモ 3 件)
内容:IEEE LSTC 主催の国際会議。ISTC は IEEE のライフサイエンスに関する、CE Society を含む 5 つの Society で構成する Council。
長谷智弘教授(龍谷大学)が Conference Chair として創設。CE Society West-Japan Chapter のメンバーが運営の中心的な役割を担った。
2. 国際会議(主催) IEEE 9th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2020)
年月日/会場:2020 年 10 月 13 日 - 10 月 16 日/神戸国際会議場

発表件数:330 件

出席者数:430 名

内容:CE Society の Vice President・長谷教授が設立した国際会議。毎年 10 月に IEEE 主催の国際会議として日本で開催している。GCCE 2020 の運営主体は CT-08 West Japan Chapter で、主たる運営はその会員で行なった。

3. 国際会議(共催) 2020 TRON Symposium

年月日/会場:2020 年 12 月 9 日~12 月 11 日/東京ミッドタウン

出席者数:100 名 (IEEE CT Society が共催)

CT Society の共催(Technical Sponsor)により、国際会議 2020 TRON Symposium を開催した。同場所で開催の TRONSHOW (6,000名参加)の一環として開催。長谷智弘教授(龍谷大学)が Vice-Chair として運営参加。

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. チャプター役員会

年月日/会場:2020 年 3 月 9 日/千里ライフサイエンスセンター 出席者数:3 名

2020 年の運営体制に関して打合せを実施した。

2. チャプター役員会

年月日/会場:2020 年 7 月 11 日/神戸国際会議場 出席者数:2 名

2020 年の運営体制に関して打合せを実施した。

3. チャプター役員会

年月日/会場:2020 年 10 月 14 日/神戸国際会議場 出席者数:6 名

GCCE 2020 の準備状況を確認し、今後の進め方に関して打合せを実施した。

【2021 年活動計画】

1. LifeTech 2021:

2021 年 3 月 9 日~11 日に奈良市の奈良ロイヤルホテルにて国際会議 LifeTech 2021 を開催する。この国際学会は、弊 Chapter の長谷智弘教授が創設した IEEE 主催のライフサイエンスに関する新規国際会議。IEEE Life Sciences Technical Community (IEEE LSTC)が主催で、IEEE LSTC には IEEE の 5 Society (Circuits and Systems Society, Consumer Electronics Society, Control Systems Society, Signal Processing Society, Engineering in Medicine and Biology Society) が参加。

2. GCCE 2021:

2021 年 10 月 12 日~15 日に京都市のメルパルク京都にて国際会議 GCCE 2021 を開催する。GCCE 2021 では若手論文賞の表彰に加え、Young Profession イベントを通じて新規若手会員の獲得に努める。

3. 2021 TRON Symposium:

12 月中旬に東京ミッドタウンで国際会議 2021 TRON Symposium (CE Society の共

催(Technical Sponsor))を開催する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

【2020 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

該当なし

II. 協賛

1. 計測自動制御学会 第7回 制御部門マルチシンポジウム (2020/3/2-5)
2. The 52nd ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (2020/10/29-30)
3. 第63回自動制御連合講演会 (2020/11/21-22)
4. システム制御情報学会セミナー2020「近未来の情報通信システムが拓く社会インパクト」(2020/12/3)

Non-Technical Meetings

Chapter 役員会

1. 第1回役員会 (2020/2/25)
2. 第2回役員会 (2020/11/21)

【2021 年活動計画】

2021 年は、主催・共催行事の開催を検討する他、例年通り下記の学会に協賛をする予定。

1. 計測自動制御学会 第8回制御部門マルチシンポジウム (2021/3/1-4)
2. ISCIE・SICE チュートリアル講座
3. The 53rd ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications
4. 第64回自動制御連合講演会
5. システム制御情報学会セミナー

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

1. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

【2020年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 講演会 (Industrial Application Society, Power Electronics Society と合同主催)

演者: 清水敏久 (首都大学東京)

演題: パワエレの高電力密度化の課題

年月日/会場: 2020年1月24--25日 立命館大学 大阪いばらきキャンパス

出席者数: 100名程度 (ハイブリッド開催のため、概数を記載)

2. 電気学会 半導体電力変換・モータドライブ合同研究会 (共催)

年月日/会場: 2020年1月24--25日 立命館大学 大阪いばらきキャンパス

発表件数: 54件

出席者数: 100名程度 (ハイブリッド開催のため、概数を記載)

3. パワーエレクトロニクス学会 第234回研究会 (共催)

年月日/会場: 2020年8月29日 ウィンクあいち

発表件数: 4件

出席者数: 22名 (現地参加者数を記載)

4. パワーエレクトロニクス学会 第235回研究会 (共催)

年月日/会場: 2020年10月24日 中央電気倶楽部

発表件数: 8件

出席者数: 45名 (現地参加者数を記載)

5. パワーエレクトロニクス学会 第236回研究会 (共催)

年月日/会場: 2020年12月19日 web開催

発表件数: 25件

出席者数: 100名程度 (オンライン開催のため、概数を記載)

II. 協賛

1. スマートエネルギーセミナー「再生可能エネルギー・長期停電対策に貢献する分散エネルギー ～EV、V2G、バッテリー、地産地消、ブロックチェーン技術、ローカル VPP～」(主催: 大阪工業大学, 芝浦工業大学, 福岡スマートハウスコンソーシアム, 横浜スマートコミュニティ, 一般社団法人 DELTA, 電気学会ローカル VPP を目指す分散エネルギー技術調査委員会)

年月日/会場: 2020年1月30日 東京ビッグサイト

発表件数:14 件

出席者数:170 名

2. スマートエネルギーセミナー「再生可能エネルギーの主力電源化に貢献する分散エネルギー ～電力融通のトレーサビリティ、EV、V2G、蓄電池、地産地消、ローカル VPP～」(主催:大阪工業大学, 芝浦工業大学, 福岡スマートハウスコンソーシアム, 横浜スマートコミュニティ, 一般社団法人 DELTA, 電気学会ローカル VPP を目指す分散エネルギー技術調査委員会)

年月日/会場:2020 年 12 月 10 日 東京ビッグサイト

発表件数:9 件

出席者数:40 名

Non-technical Meetings

1. IEEE IES ヤングエンジニアアワード表彰式に関する打ち合わせ
年月日/会場:2020 年 8 月 27 日/ 岡山大学
出席者数: 2 名
2. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞に関する打ち合わせ
年月日/会場:2020 年 12 月 19 日/ 岡山理科大学
出席者数: 3 名

Chapter 支援費利用事業

1. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award (2020 年 8 月 29 日実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して 2019 年に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から、35 歳以下の若手によるもの 1 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与し、副賞として図書カード 1 万円分を授与した。

主旨:(B)若手獲得・育成の企画、利用支援費 1 万円

内訳:副賞(1 万円)/件×1 件

【2021 年活動計画】

パワーエレクトロニクス学会と共催で、4 月、6 月、8 月、10 月、12 月に定例研究会の開催が予定されている。

また、以下の表彰を行う計画である。

1. 2020 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して 2020 年 12 月に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会における学生・若手技術者によりポスター形式の発表の中の優秀発表 2 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与する。(例年、研究会開催日中に受賞者を決定し、表彰しているが、本年度はオンライン開催に伴う形式変更があり、2021 年度4月の定例研究会にて表彰する予定となった。)

2. 2021 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

IEEE-IES Japan Joint Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会(12月の研究会は対象から除外する)の満 35 歳以下(ただし発表時点において)の最優秀論文 1 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award を授与する。

3. 2021 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して 12 月に開催されるパワーエレクトロニクス学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で 30 件程度の発表会が行われている。その中の優秀発表 2 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与する。

これらの活動については下記の Web サイトで広報を行う。

URL <http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>

m. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

【2020 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. IEEE Magnetics Society Chapter 共同 DL 講演会 (主催)

演者: Masashi Shiraishi 教授 (Kyoto University, Japan)

演題: Spins in Low-dimensional Materials Systems:

Transport, Gate-control and Conversion

演者: Mathias Kläui 教授 (Johannes Gutenberg-University Mainz, Germany)

演題: Antiferromagnetic Insulatronics:

Spintronics without magnetic fields and moving electrons

年月日/会場: 2020 年 10 月 21 日 Webinar

出席者数: 58 名

2. IEEE Magnetics Society Chapter 共同 DL 講演会 (主催)

演者: Masashi Shiraishi 教授 (Kyoto University, Japan)

演題: Spins in Low-dimensional Materials Systems:

Transport, Gate-control and Conversion

演 者： Mathias Kläui 教授(Johannes Gutenberg-University Mainz, Germany)

演 題： Antiferromagnetic Insulatronics:

Spintronics without magnetic fields and moving electrons

年月日／会場： 2020 年 10 月 22 日 Webinar

出席者数： 45 名

3. MRIS 2020 (共催)

年月日／会場： 2020 年 12 月 3 日 Webinar

発表件数：6 件

招待講演： Akihiko Takeo, Gaku Koizumi, Naoyuki Narita, Masayuki Takagishi, Tomoyuki Maeda (Toshiba), “Extended Concept of MAMR and Its Performance and Reliability”

出席者数： 12 名

Non-technical Meetings

1. 第 1 回役員会

年月日／会場：2020 年 8 月 28 日 大阪府立大学

出席者数：6 名

【2021 年活動計画】

2021 年は、関西・四国圏の磁性関連研究者を対象に、技術講演会の開催や学生・若手研究者を主たる対象とした研究会を開催するなど、技術情報の提供や会員獲得に向けた活動を実施する。具体的には、10-12 月に基調講演と学生のポスター発表会をメインとする第6回関西四国磁性研究会を開催する。同会では学生に奨励賞を授与する予定である。これ以外に、DL 講演会、関西・四国地区での研究会の主催を企画する。国内の他 MAG chapter との連携を強化しており、DL 講演会のオンライン共同開催などを進める。また、各国の chapter 間の国際協力活動を継続し、MagSoc virtual chapters meeting を通じて、若手研究者の交流やキャリア支援や DL 推薦などを協議する。また、他学協会と研究会などを共催・協賛する予定である。特に IEEE と関わりがある日本磁気学会の研究会との共催を進める。併せて会員への情報提供のため、HP の充実を図る。

URL <http://ieeemag.wixsite.com/kansai-shikoku>

V. 関西支部会員数

1. 会員数推移状況（12月末調査時点）

表. 年ごとの会員数と内訳

Year	H	LF	F	LS	SM	LM	M	AM	GSM	StM	Total
2011	0	40	48	9	110	50	1,559	105	233	159	2,313
2012	0	44	38	11	118	59	1,587	82	317	78	2,334
2013	1	45	35	14	113	64	1,604	62	288	129	2,355
2014	1	46	31	20	116	69	1,594	60	271	99	2,307
2015	1	45	34	18	127	75	1,556	55	255	93	2,259
2016	1	48	30	23	126	82	1,547	61	258	82	2,258
2017	1	48	28	24	124	84	1,520	61	290	52	2,232
2018	1	41	27	23	126	88	1,539	59	266	49	2,219
2019	1	46	22	24	140	92	1,494	52	291	69	2,231
2020	1	49	21	30	145	98	1,470	45	241	55	2,155

Grade code H: Honorary member, LF: Life Fellow, F: Fellow,
 LS: Life Senior member, SM: Senior Member,
 LM: Life Member, M: Member, AM: Associate Member,
 GSM: Graduate Student Member, StM: Student Member

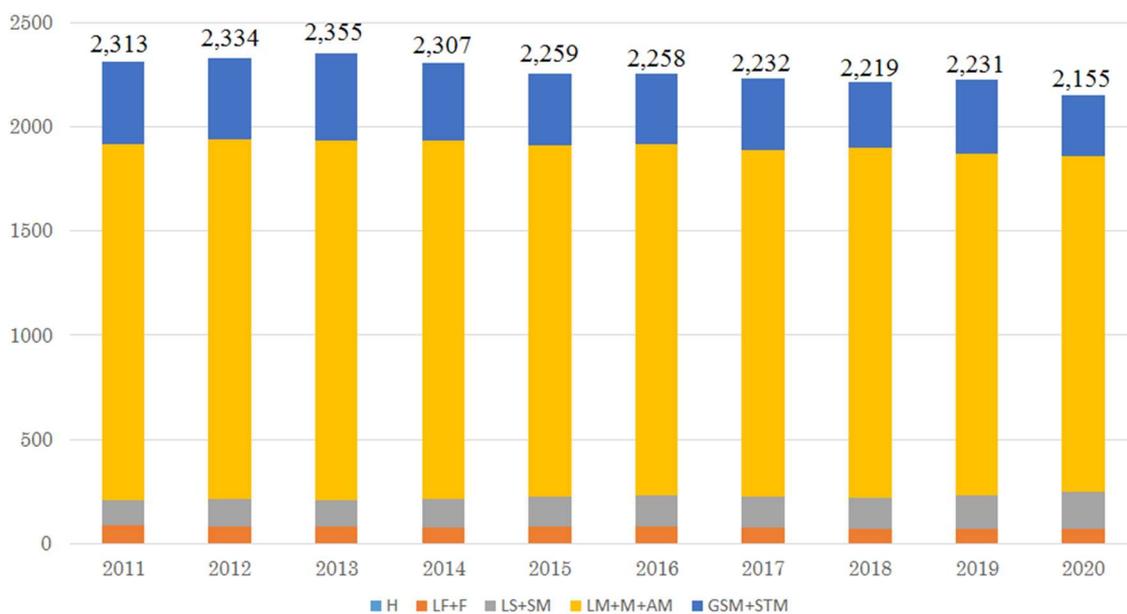


図. 会員区分の推移

2. ソサイエティ別会員数

[2020年12月31日更新]

○ 幹事Chapter

Society Code	Society Chapter Name	Established Year	関西支部メンバー数	Chapter 構成	札幌	仙台	信越	東京	名古屋	関西	四国	広島	福岡
SP-01	Signal Processing Society Tokyo Joint Chapter	1982		東京Joint	○		○	○	○		○	○	○
	Signal Processing Society Sendai Chapter	2013		仙台単独		○							
	Signal Processing Society Kansai Chapter	2007	137	関西単独						○			
BT-02	Tokyo/Japan Sections Broadcast Technology Society Joint Chapter	1983	3	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Anntenas and Propagation Society Tokyo Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○					
	Anntenas and Propagation Society Nagoya Chapter	2006		名古屋単独					○				
AP-03	Anntenas and Propagation Society Kansai Chapter	2006	67	関西Joint						○	○	○	
	Anntenas and Propagation Society Fukuoka Chapter	2005		福岡単独									○
	Circuits and Systems Society Japan Joint Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○	○			○	○
CAS-04	Circuits and Systems Society Kansai Chapter	2002	102	関西単独						○			
	Circuits and Systems Society Shikoku Chapter	2006		四国単独							○		
	Circuits and Systems Society Fukuoka Chapter	2001		福岡単独									○
NPS-05	Nuclear and Plasma Sciences Society Japan Chapter	1981	28	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VT-06	Vehicular Technology Society Tokyo Chapter	1979	36	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
R-07	Reliability Society Japan Joint Chapter	1983	15	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CT-08	Consumer Technology Society East Joint Japan Chapter	1983		東京Joint	○	○	○	○	○				
	Consumer Technology Society West Joint Japan Chapter	2008	27	関西Joint						○	○	○	○
IM-09	Instrumentation and Measurement Tokyo/Japan Sections Joint Chapter	1973	10	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AES-10	Aerospace and Electronic Systems Society Japan Chapter	1991	12	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CIS-11	Computational Intelligence Society Japan Chapter	2004	90	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IT-12	Information Theory Society Japan Chapter	1981	42	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IE-13	Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter	1981	63	関西Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TEM-14	Technology and Engineering Management Society Japan Chapter	1997	11	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ED-15	Electron Devices Society Japan Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○	○		○	○	○
	Electron Devices Society Kansai Chapter	2000	161	関西単独						○			
C-16	Computer Society Japan Chapter	1967		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Computer Society Kansai Chapter	2006	340	関西単独						○			
	Computer Society Fukuoka Chapter	2004		福岡単独									○
MIT-17	Microwave Theory and Techniques Society Japan Chapter	1958		東京Joint	○	○	○	○			○	○	○
	Microwave Theory and Techniques Society Nagoya Chapter	2010		名古屋単独					○				
	Microwave Theory and Techniques Society Kansai Chapter	2006	131	関西単独						○			
EMB-18	Engineering in Medicine and Biology Society Japan Chapter	1970	111	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	West Japan Chapter of Engineering in Medicine and Biology	2007		福岡Joint							○	○	○
COM-19	Communications Society Japan Chapter	1973		東京Joint	○		○	○	○		○	○	○
	Communications Society Sendai Section Chapter	2012		仙台単独		○							
	Communications Society Kansai Chapter	2006	181	関西単独						○			
UFFC-20	Ultrasonics, Ferroelectrics and Frequency Control All Japan Joint Chapter	1986	37	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
EP-21	Electronics Packaging Society Japan Chapter	1994	37	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
OE-22	Oceanic Engineering Society Japan Chapter	1996	8	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CS-23	Control Systems Society Japan Chapter	1981		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Control Systems Society Kansai Chapter	2011	88	関西単独						○			
RA-24	Robotics and Automation Society Japan Joint Chapter	1990	147	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
E-25	Education Society Japan Chapter	1981	12	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PC-26	Professional Communication Society Japan Chapter	2006	2	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
EMC-27	Electromagnetic Compatibility Society Japan Joint Chapter	1980	36	東京Joint	○		○	○	○	○	○	○	○
	Electromagnetic Compatibility Society Sendai Chapter	2001		仙台単独		○							
SMC-28	Systems, Man, and Cybernetics Society Japan Chapter	1974	86	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Systems, Man, and Cybernetics Society Hiroshima Chapter	2005		広島単独									○
GRS-29	Geoscience and Remote Sensing Society All Japan Joint Chapter	1982	15	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SIT-30	Society on Social Implications of Technology Japan Chapter	1983	3	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PE-31	Power & Energy Society Japan Joint Chapter	1964	56	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DEI-32	Dielectrics and Electrical Insulation Society Japan Chapter	1986	11	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MAG-33	Magnetics Society Tokyo Chapter	1977		東京単独				○					
	Magnetics Society Sendai/Sapporo Joint Chapter	2005		仙台Joint	○	○							
	Magnetics Society Shin-etsu Chapter	2015		信越単独			○						
	Magnetics Society of Japan Nagoya Chapter	2008		名古屋単独					○				
	Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter	2015	37	関西Joint						○	○		
Fukuok/Hiroshima Joint Sections Magnetics Society Chapter	2018		福岡Joint									○	
IA-34	Industry Applications Society Japan Chapter	1973	60	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PEL-35	Power Electronics Society Japan Joint Chapter	1990	78	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Power Electronics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									○
PHO-36	Photonics Society Japan Chapter	1986		東京Joint	○	○	○	○	○		○	○	○
	Photonics Society Kansai Chapter	2007	65	関西単独						○			
	Photonics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									○
SSC-37	Solid-State Circuits Society Japan Chapter	1998		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Solid-State Circuits Society Kansai Chapter	2001	108	関西単独						○			
ITS-38	Intelligent Transportation Systems Society Tokyo Chapter	2014	23	東京単独				○					
	Intelligent Transportation Systems Society Nagoya Chapter	2013		名古屋単独					○				
PSE-43	Product Safety Engineering Society		5										
CEDA-44	Council on Electronics Design Automation All Japan Joint Chapter	2014		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○

関西単独
 関西Joint
 他支部Joint

他支部Jointで関西支部会員数が50名を超えるもの

「◎」幹事 Section(活動の主体、Rebate の受領及活動報告義務)、「○」Joint Chapter に参画している Section 12 名以上で、Chapter の設立が可能。なお、関西 Section が参画する Chapter のみを一覧

VI. 2020年 会計報告

収入の部	2020年計画		2020年実績	
◆IEEE Entity間勘定	1,995,567	内容	1,930,193	内容
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,617,000	・ 2019年実績から : \$ 13,000 (Chapter Rebate&Bonus: \$ 3,310, AG Rebate&Bonus: \$ 810 含む)	1,525,388	6/15 \$ 14,357.95 : 106.24 JPY/USD (Chapter Rebate&Bonus: \$ 3,535, AG Rebate&Bonus: \$ 885 含む)
▲ Chapter Rebate支払	▲ 356,818	(\$ 200X13)X1.1+ \$ 75X6= \$ 3,310	▲ 375,561	7/28 (\$ 200X13)X1.1+ \$ 75X9= \$ 3,535 (\$ 200X3)X1.1+ \$ 75X3= \$ 885
▲ Affinity Group Rebate支払	▲ 87,318	(\$ 200X3)X1.1+ \$ 75X2= \$ 810	▲ 62,682	8/18 LMAG分 31,341円支払 1/8 WIE分 31,341円支払
・ SB Rebate	54,063	\$900 (2019年から算出)	127,500	7/21 \$1,200.00: 106.25 JPY/USD
▲ SB Rebate支払	▲ 54,063		▲ 127,502	8/28 立命館大学分を除く103,702円支払 12/22 立命館大学分 (23,800円) 支払
・ Section Rebate 小計	1,172,864		1,087,143	
・ Section Assessment 2020 前後期	4,047,356	2019年実績から 前期:\$36,611.59,後期:\$482	3,925,049	4/30 前期:3,858,526円 (\$ 36,445.89:105.87JPY/USD) 10/15 後期:66,523円 (\$ 638.05:104.26JPY/USD)
▲ Japan Council提出金+手数料	▲ 3,440,253	JCへのAssesment入金85% (15%はSectionに還元)	3,336,292	JCへのAssesment入金85% 5/15 前期:3,279,747円 (内手数料1,940円) 11/18 後期:56,545円 (内手数料440円)
・ Section Assesment小計	607,103	2019年から15%還元残高	588,757	15%還元残高 前期 : 578,779円 後期 : 9,978円
・ LMAG Fund	0		0	
・ WIE Fund	0		0	
・ YP Fund	0		0	
・ AG Fund 小計	0		0	
・ R10 Section Incentives for 2019 Activities	215,600		223,839	1/20 \$2,050 (109.19JPY/USD)
・ 2019 Senior Member Initiative Rebate			7,622	2/14 2019 Senior Member Initiative Rebate (\$ 70 : 108.89JPY/USD)
・ 銀行利息			22,832	22,820円 CB口座利息 12円 日本口座利息
・ その他小計	215,600		254,293	
◆ Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	248,000		53,925	
・ Section支援(SB) (2019年分)	50,000	博士課程のキャリアについて語る会	21,705	11/16 入金 (21,705)
・ Section支援(WIE)	50,000	シニアメンバー昇格のための勉強会	32,220	12/9 入金 (32,220)
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	148,000	2020年2月実施 ・ YP賞メダル (¥12,000/個、3個) ・ 関西支部メダル (¥10,000/個、6個) ・ 学生研究奨励賞 (¥20,000/人、10人) の半額支援	0	2020年 Section支援申請なし
小計	2,243,567		1,984,118	
◆ 2019年からの繰越金	3,619,069	¥口座 ¥1,257,960.- \$口座 \$21,749.35 TTB108.56(12/30現在)	3,619,069	¥口座 ¥1,257,960.- \$口座 \$21,749.35 TTB108.56(12/30現在)
合計	5,862,636		5,603,187	

支出の部	2020年計画		2020年実績	
◆会合・AWARD・活動	3,030,480	内容	961,803	内容
・関西支部活性化費	800,000	150,000 MAW派遣旅費(10月 広島 AGから各1名) 50,000 JapanSYWL学生派遣(10月 広島 1名) 300,000 R10 SYWL 学生派遣(8月 タイ 2名) 100,000 博士のキャリアを語る会(YP 9~10月) 100,000 シニア会員昇格講演会(NC 9~10月) 100,000 TENCON2020学生派遣(SB 11/16-18 2名)	106,200	42,200 博士のキャリアを語る会(9/27) 64,000 シニア会員昇格講演会(11/21)
・総会開催費	600,000	資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等	319,247	53,485 総会資料印刷費 248,500 会場費(懇親会キャンセル料含) 10,000 YP賞, 学生交通費 7,262 消耗品費等
▲懇親会費徴収	▲140,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(4,000円×35名想定)	0	懇親会非実施
・講演会開催費(TPC)	180,000	TPCの講演者への謝礼:3万円×6人 会場費(技術講演会5回を計画)	60,000	30,000 第110回関西支部技術講演会(2/4) 第111回 謝礼支出無し 30,000 第112回関西支部技術講演会(12/2)
・理事会費	300,000	会場代他(5万円×6回予定)	56,153	53,123 第1回理事会(1/21) 3,030 第6回理事会 会議室キャンセル代(12/7)
・Committee会合費	150,000	MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	0	オンライン開催等により支出無し
・メダル、研究奨励賞	395,480	140,000 学生研究奨励賞(¥20,000 7名):2020年総会用 37,788 YP賞メダル(3個分):2021年総会用 202,692 関西支部メダル(15個分):2021年総会用 15,000 賞状(20枚 支出2月)	304,141	140,000 学生研究奨励賞(3/4 20,000 7名) 19,958 賞状(7/1 \$186.32 TCB107.12) 4,160 受賞者へのメダル郵送料 240 受賞者への賞状郵送料 139,783 2021年総会用メダル作成費用(12/22)
・Student Branch支援	345,000	25,000 SB Chairミーティング(4~5月) 100,000 研究交流会(7月) 100,000 英語プレゼン大会(10~11月) 90,000 プレインストミグコファクト(9~11月) 30,000 年末交流会(12月)	0	Web活用等により支払い無し
・LMAG支援費	150,000	40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削(春頃依頼) 50,000 東アジアLMAG会議参加費(旅費:春) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 10,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)	40,000	20,000 英文添削(2/28) 20,000 News Letter発行指導謝礼(11/11)
・WIE支援費	250,000	WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)	76,062	WIE Symposium 開催関連費(9/26開催) ポスター印刷代、Zoom契約料、消耗品代、講師謝金他
◆事務経費	0		14,500	
・外部監査費	0	外部監査不要	0	
・事務用品費	0	ファイル等	0	
・旅費	0	各種旅費支援	0	
・通信費	0	郵送料、宅急便等	14,500	事務局資材搬送代(12/1)
◆雑費	30,000		12,485	
・取引手数料、他	30,000	為替手数料、振込手数料 (理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)	12,485	振込手数料
小計	3,060,480		988,788	
◆2021年への繰越	2,802,156		4,614,399	
合計	5,862,636		5,603,187	

VII. 2021年 予算

収入の部		2020年実績	2021年計画	内容
◆IEEE Entity間勘定		1,930,193	2,255,900	
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,525,388	1,525,388		2020年実績 : \$ 14,357.95 : 106.24 JPY/USD (Chapter Rebate&Bonus: \$ 3,535, AG Rebate&Bonus: \$ 885 含む)
▲Chapter Rebate支払	▲ 375,561	▲ 375,561		2020年実績 : (\$ 200X13)X1.1+ \$ 75X9= \$ 3,535
▲Affinity Group Rebate支払	▲ 62,682	▲ 62,682		2020年実績 : (\$ 200X3)X1.1+ \$ 75X2= \$ 810
・ SB Rebate	127,500	127,500		2020年実績 : \$1,200.00: 106.25 JPY/USD
▲SB Rebate支払	▲ 127,502	▲ 127,502		
・ Section Rebate 小計	1,087,143	1,087,143		
・ Section Assessment 2020 前後期	3,925,049	3,925,049		2020年実績 : 前期:\$36,445.89,後期:\$638.05
▲Japan Council拠出金+手数料	3,336,292	3,336,292		2020年実績 : JCへのAssesment入金85% (振込手数料含) 前期 : 3,279,747円 (内手数料1,940円) 後期:56,545円 (内手数料440円)
・ Section Assesment小計	588,757	588,757		2020年実績 : 15%還元残高 前期 : 578,779円、後期 : 9,978円
・ LMAG Fund	0	0		
・ WIE Fund	0	0		
・ YP Fund	0	0		
・ AG Fund 小計	0	0		
	223,839	260,000		R10 Section Incentives for 2020 Activities \$2,500 (104 JPY/USD) \$450 up、2021年初受領見込み
		300,000		TENCON2020余剰金
	7,622			
	22,832	20,000		銀行利息 2020年実績予想程度
・ その他小計	254,293	580,000		
◆Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	53,925	250,000		
・ Section支援(YP)	21,705	0		2021年 Section支援申請無し
・ Section支援(NC)	32,220	0		2021年 Section支援申請無し
・ Section支援(EA)		150,000		期初申請は無し、以下を期中(9月頃)申請 150,000 一般向け科学/技術教育イベント(9~10月)半額
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	0	100,000		期初申請は無し、以下を期中(9月頃)申請 100,000 新Senior昇格者授与メダル (JC大2022年総会用 半額 5,000×20個)
小計	1,984,118	2,505,900		
◆2020年からの繰越金	3,619,069	4,614,399		
合計	5,603,187	7,120,299		

支出の部		2021年計画	2020年計画	2020年実績
◆会合・AWARD・活動費	3,751,298	内容	内容	内容
・関西支部活性化費	1,423,500	2020年計画相当+新規活性化イベント、Hybrid会議対応： 150,000 MAW派遣旅費（10月 場所未定 AGから各1名） 50,000 JapanSYWL学生派遣（10月 場所未定 1名） 300,000 国際イベント 学生派遣（時期場所未定 2名） 100,000 博士のキャリアを語る会（YP 9～10月） 100,000 シニア会員昇格講演会（NC 9～10月） 100,000 企業会員を増やすための講演会（MDC 9～10月） - IEEE Mile Stoneの関西での実例 300,000 一般向け科学/技術教育イベント（EA 9～10月） 203,500 スピーカーマイク+拡張マイク3個（見積書参照） 120,000 Webカメラ	800,000 150,000 MAW派遣旅費（10月 広島 AGから各1名） 50,000 JapanSYWL学生派遣（10月 広島 1名） 300,000 R10 SYWL学生派遣（8月 タイ2名） 100,000 博士のキャリアを語る会（YP 9～10月） 100,000 シニア会員昇格講演会（NC 9～10月） 100,000 TENCON2020学生派遣（SB 11/16-18 2名）	106,200 42,200 博士のキャリアを語る会（9/27） 64,000 シニア会員昇格講演会（11/21）
・総会開催費	600,000	2020年計画相当： 資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、214,000 （下記懇親会費徴収額を超える114,000を関西支部が負担）	600,000 資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等	319,247 53,485 総会資料印刷費 248,500 会場費（懇親会キャンセル料含む） 10,000 YP賞、学生交通費 7,262 消耗品費等
▲懇親会費徴収	▲100,000	総会懇親会（懇親会参加費入金分）（5,000円×20名想定） ソーシャルディスタンスを考慮し人数限定開催（最大24名）	▲140,000 総会懇親会 （懇親会参加費入金分）（4,000円×35名想定）	0 懇親会非実施
・講演会開催費（TPC）	150,000	TPCの講演者への謝礼：3万円×5人	180,000 TPCの講演者への謝礼：3万円×6人 会場費（技術講演会5回を計画）	60,000 30,000 第110回関西支部技術講演会(2/4) 第111回 謝礼支出無し 30,000 第112回関西支部技術講演会(12/2)
・理事会費	250,000	会場代他（5万円×5回予定）	300,000 会場代他（5万円×6回予定）	56,153 53,123 第1回理事会（1/21） 3,030 第6回理事会 会議室キャンセル代（12/7）
・Committee会合費	150,000	2020年計画相当： MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	150,000 MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	0 オンライン開催等により支出無し
・メダル、研究奨励賞	377,788	2020年計画相当： 140,000 学生研究奨励賞(¥20,000 7名)；2021年総会用 37,788 YP賞メダル(3個分)；2022年総会用 200,000 ICメダル(20個分)；2022年総会用	395,480 140,000 学生研究奨励賞(¥20,000 7名)；2020年総会用 37,788 YP賞メダル(3個分)；2021年総会用 202,692 関西支部メダル(15個分)；2021年総会用 15,000 賞状 (20枚 支出2月)	304,141 140,000 学生研究奨励賞 (3/4 20,000 7名) 19,958 賞状 (7/1 \$ 186.32 TCB107.12) 4,160 受賞者へのメダル郵送料 240 受賞者への賞状郵送料 139,783 2021年総会用メダル作成費用 (12/22)
・Student Branch 支援費	390,000	2020年計画相当： 25,000 SB Chairミーティング（4～5月） 100,000 研究交流会（7月） 145,000 英語プレゼン大会（昨年度分1月、10～11月の2回） 90,000 アライストミカコファクト（9～11月） 30,000 年末交流会（12月）	345,000 25,000 SB Chairミーティング（4～5月） 100,000 研究交流会（7月） 100,000 英語プレゼン大会（10～11月） 90,000 アライストミカコファクト（9～11月） 30,000 年末交流会（12月）	0 Web活用等により支払い無し
・LMAG支援費	160,000	2020年計画相当： 40,000 技術講演会開催・準備費用（手土産・講師謝礼） 20,000 英文添削（春頃依頼） 50,000 東アジアLMAG会議参加費（旅費：春） 8,000 LMAGサロン等活動費（事務費用含む） 22,000 SBプレスト大会（LMAG賞、講師謝礼） 20,000 SB英語プレゼン大会（LMAG賞） （昨年度分1月、10～11月の2回）	150,000 40,000 技術講演会開催・準備費用（手土産・講師謝礼） 20,000 英文添削（春頃依頼） 50,000 東アジアLMAG会議参加費（旅費：春） 8,000 LMAGサロン等活動費（事務費用含む） 22,000 SBプレスト大会（LMAG賞、講師謝礼） 10,000 SB英語プレゼン大会（LMAG賞）	40,000 20,000 英文添削（2/28） 20,000 News Letter発行指導謝礼（11/11）
・WIE支援費	250,000	2020年計画相当： WIE Symposium、WIE/YP joint WS （ポスターデザイン料 50,000含む）	250,000 WIE Symposium、WIE/YP joint WS （ポスターデザイン料 50,000含む）	76,062 WIE Symposium 開催関連費(9/26開催) ポスター印刷代、Zoom契約料、消耗品代、講師謝金他
・EA支援費	100,000	新規： EA活動雑費		
◆事務経費	0		0	14,500
・外部監査費	0	外部監査不要	0	0
・事務用品費	0	ファイル等	0	0
・旅費	0	各種旅費支援	0	0
・通信費	0	郵送料、宅急便等	0	14,500 事務局賞状郵送料代（12/1）
◆雑費	30,000		30,000	12,485
・取引手数料、他	30,000	2020年計画相当： 為替手数料、振込手数料（理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込、他）	30,000 為替手数料、振込手数料（理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込、他）	12,485 振込手数料
小計	3,781,288		3,060,480	988,788
◆次年度への繰越	3,339,011		2,802,156	4,614,399
合計	7,120,299		5,862,636	5,603,187

VIII. 受賞者

IEEE 関西支部 Young Professionals 賞受賞者 (2名)

藤橋 卓也	大阪大学
岡田 雅司	パナソニック株式会社

IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者 (9名)

塚本 裕貴	京都大学
香田 優介	京都大学
白井 僚	大阪大学
チン チョウコウ	京都大学
チュ リンウエイ	奈良先端科学技術大学院大学
佐藤 優志	大阪大学
松尾 亮祐	京都大学
關口 航平	京都大学
ルスタミ エルス	奈良先端科学技術大学院大学

IEEE 関西支部メダル受賞者 (新 Senior member) (19名)

加嶋 健司	京都大学
中島 康彦	奈良先端科学技術大学院大学
大塚 敏之	京都大学
Steven Szymczak	楽天
張 任遠	奈良先端科学技術大学院大学
前川 卓也	大阪大学
西尾 理志	東京工業大学
山本 高至	京都大学
雨宮 尚之	京都大学
江利口 浩二	京都大学
原田 研介	大阪大学
馬 強	京都大学
皆川 忠郎	三菱電機
瀧川 一学	理化学研究所
伊藤 信貴	日本電信電話
松野 文俊	京都大学

湊 真一

万 偉偉

柴田 直樹

京都大学

大阪大学

奈良先端科学技術大学院大学

IEEE 関西支部 新 Fellow

(3名)

太田 淳

玉井 伸三

中谷 智広

奈良先端科学技術大学院大学

東芝三菱電機産業システム

日本電信電話

(敬称略)

以降、参考情報

I. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN.

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,
representatives of Affinity Groups,
such other members appointed by the Section Executive Committee,
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section,

shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

IEEE 関西支部メダル授与規定

関西支部は、関西支部活動への積極的な参画を動機付けること、及び、Member Grade の昇格を動機付けることを目的とし、また、関西支部活動のアピールを行なうことにより関西支部の活性化に繋げることを目的として、IEEE 関西支部メダルを下記の者に授与する。

1. 関西支部に所属する新 Fellow で、Senior Member 昇格時に IEEE 関西支部メダルを贈呈されなかった者
1. 総会の前年の 1 年間の間に関西支部で新 Senior Member に昇格した者
2. 支部長が推薦し、理事会において承認された者

また、下記の希望者に対しては、支部長が推薦し、理事会において承認された上で、有償にて授与することができる。但し、その金額は IEEE 関西支部メダルを造幣局から購入した最新の購入単価とする。

1. 関西支部に所属する Fellow 又は Senior Member の希望者で、Fellow 昇格時又は Senior Member 昇格時において IEEE 関西支部メダルを贈呈されなかった者
2. 関西支部内部の運営に貢献のあった者
3. 上記以外の特別な理由で理事会の承認を得た者

本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2008 年 9 月 17 日改定

2010 年 6 月 23 日改定

2012 年 1 月 4 日改定

2014 年 5 月 9 日改定

2017 年 1 月 1 日改定

IEEE 賞状用紙支給に関する規定について

IEEE Japan Council の Award 登録を行った Chapter、Affinity Group、Student Branch の表彰に対し、IEEE の賞状に台紙を支給することができる。

1. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① IEEE Japan Council の Award 登録手続きに従い、登録を行う。
- ② IEEE Japan Council の Award 登録用紙(Excel)、賞状の必要枚数、賞状送付先住所氏名を添え、賞状授与申請のメールを関西支部事務局(sec-kansai@ieee-jp.org)に送付する。なお、申請は会合の2週間以上前とする。
メールタイトルは、「【IEEE 賞状授与申請】[組織名]必要に応じて備考」としていただきたい。
- ① 内容を確認し、問題がなければ Award Committee より、所定の住所へ賞状を発送する。
- ② 授与組織は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、関西支部事務局にメール送付する。

2. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016年10月20日施行

2017年1月1日改定

IEEE 関西支部 Chapter 予算補てんに関する規定について

Chapter が活動を行う際に、関西支部からの Rebate、Society からの支援では活動費がまかなえない場合に、関西支部が Chapter の不足額の補てんについては、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

年初に Chapter 支援総額を予算化し、その予算の中で運用する。

なお、予算総額については、2月に開催される総会で承認をする。予算額は、その年の支部の活動、為替レートなどにより変動する可能性がある。

1年間の Chapter あたりの補てん額の上限は 3 万円とする。なお、予算総額に応じ、上限額は変わることがある。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① Chapter より、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、現在の Chapter 資金、会合にかかる想定費用、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Chapter Operation Committee (COC) に送付する。なお、申請は会合の 3 週間以上前とする。
- ② COC は、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、Chapter からの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ Chapter に承認の可否を連絡する。
- ④ Chapter は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、各種領収書、請求書の PDF を関西支部事務局にメール送付するとともに、請求書の原本を関西支部事務局に送付する。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、Chapter に所定の金額を振り込む。

3. 補てん可能な内容について

① 講演者への謝礼

原則、IEEE 会員の講演者については、謝礼を遠慮していただいているが、謝礼をしなければ、有用な事業が実施できない場合に、支援を行う。

- i) Chapter が「主催」もしくは「共催」する事業に限定する
- ii) 謝礼額は、原則として、Chapter ごとの差が出ないように、1 名 1 万円とする
- iii) 支援を受ける事業については、Chapter のホームページ等で Chapter 会員に周知する。
- iv) 想定参加人数は、10 名以上であること。

② 役員会合に対する支援

Chapter の役員会合に対しては、Japan Council からは支援が受けられないが、役員
の力が Chapter 活動に大きく影響するため、役員会合に対しても一定の支援を行うこと
にする。ただし、飲食に対する支援は、1 回/年とする。

- i) 会合の参加者は 3 名以上
- ii) IEEE 本部の Meeting Report が作成されていること
- iii) 支援額は、飲食代の 1/2 以下とする
 - ・1 名あたりの支援額の上限を 2,000 円(税抜き)とする
 - ・会合の終了時間が 19 時以降の場合に支援を行う

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 9 月 23 日施行

2017 年 1 月 1 日改定

IEEE 関西支部 SB 支援に関する規定について

関西支部が Student Branch(SB)活動に対する支援については、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

- ① 1 事業の支援額の上限は 3 万円とする。なお、旅費は除く。
- ② 支部の予算状況に応じて運用し、支援を保証するものではない。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① SB より、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Student Activities Committee (SAC) に送付する。なお、申請は会合の 3 週間以上前とする。
- ② SAC は、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、SB からの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ SB に承認の可否を連絡する。
- ④ SB は会合開催後、活動報告レポートの関西支部への提出及び SB のホームページへの活動報告の登録を行った後に、領収書の PDF を関西支部事務局にメール送付するとともに、領収書の原本を関西支部事務局に送付する。
なお、活動報告のレポートには、
 - ・開催日時、場所
 - ・参加人数および可能であれば、IEEE 会員の参加人数
 - ・イベントの規模がわかる写真
 - ・副賞などの支援を行った場合には、受賞者の写真を掲載することが望ましい。
SB のホームページには活動報告のレポートを掲載するなどで対応してもよい。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、SB 口座に所定の金額を振り込む。

3. 支援内容について

SB の活動に対し、

- ① IEEE 会合に付随して開催されること。
- ② IEEE 本部の Meeting Report が作成されていること
- ③ SB のホームページに会合の報告が公開されること

の条件が満たされ、かつ、各項目記載の条件を満たす場合に、以下のような支援を行う

- ④ 会合に付随する飲食の支援について
以下の要件を満たす場合に、費用の 1/2 もしくは、2,000 円(税抜)/人の低い額を支援する。
 - i) IEEE 会合に参加している人数が 5 名以上
- ⑤ 会合に参加する際の旅費の支援について
以下の要件を満たす場合に、旅費交通費を支援する。
 - i) IEEE 会合に参加している人数が 5 名以上

ii) 運営側、もしくは発表者として参加していること。単なる参加者には支援を行わない。

支援対象者の役割一覧を提出すること

⑥ 発表会などの副賞について

以下の要件を満たす場合に、副賞を支援する。

- i) IEEE 会合に参加している人数が 10 名以上
- ii) 副賞を受け取れる人数は参加者の 10%以下
- iii) 副賞は現金以外(図書券など)とする
- iv) 副賞の上限は 10,000 円/人とする

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・ 事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 12 月 20 日施行

IEEE 関西支部理事会役員に関する規定について

IEEE 関西支部理事会及び支部長が指名する理事役員として、以下のメンバーを関西支部の理事役員とする。

1. Past 役員

Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer, Past Committee Chair についても、Chair もしくは理事会で指名した場合には、理事会役員とする。

2. Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者

現行 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer の残り任期が 1 年以下の期間に、Chair もしくは理事会で指名した場合に、次期 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者を理事会役員とする。なお、立候補予定者は、次期役員として立候補することを前提とする。また、候補予定者が役員となる時には、Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer は原則として役員を退任する。

3. 適用日

本規定は、2018 年 1 月 31 日から適用する。

2018 年 1 月 30 日理事会承認

参考

By Laws より

such other members appointed by the Section Executive Committee, and such other members appointed by the Section Chairman.

MGA Operation Manual/9.4 Sections/D. Section Management

1. The Section affairs shall be managed by an Executive Committee consisting of the elected officers. The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed. Chapter and Affinity Group Chairs, as elected by their membership, are considered "elected" official, as is the Past Section Chair.
※その他の Past Vice Chair, Past Committee Chair 等については、記載がない
2. All Chapters and Affinity Groups in the Section shall have voting representation either individually or collectively on the Section Executive Committee, and the Subsection Chairs shall be ex-officio members with voting power.
3. Sections may have Student representation on the Executive Committee through appointment of one Student member and/or the Chair of the Section Student Activities Committee. It is recommended that every Section have a Section Student Representative (SSR), who is a voting member of the Section Committee, in Sections where there is at least one Student Branch.
4. A quorum is required for administrative meetings. A majority of the voting members the committee shall constitute a quorum. These meetings shall be conducted in accordance with Robert's Rules of Order (latest version) as the standard parliamentary authority.
5. Reasonable efforts should be made to notify all members of Section meetings and activities. Methods of communication could be, but are not limited to, email distributions (in keeping with IEEE email policies), postings on Section Web sites, social media venues, or hard copy distributions.

関西支部では、Chair, Vice Chair, Secretary, Treasurer, MDC Chair, NC Chair, SAC Chair, TPC Chair, AC Chair, COC Chair の 10 名 + LMAG Chair, WIE Chair, YP Chair, Past Chair の合計 14 名が選挙で選ばれた役員/理事。従って、役員/理事総数は 27 名以下。なお、Past Chair も退任する場合、Secretary と Treasurer が兼任の場合には、役員/理事会総数は 25 名以下。

基本的には、Elected 扱いの Past Chair が残っていれば、他のすべての役職の Past もしくは立候補予定者が入っても、必ず、選挙で選ばれた役員は過半数を超えるが、Past Chair の代わりに Chair 立候補予定者となってしまうと、どれかの役職の Past もしくは立候補予定者が理事会に入らない状態にならないければ、選挙で選ばれた役員数が過半数を超える状態にならないため、注意が必要。

(参考) 関西支部各チャプターにおける国際会議 Sponsorship の承認手続きについては、以下の JCCOC の手続きに従うこととする。

国際会議 Sponsorship の承認手続きについて

2018年12月18日

2019年02月14日 改訂

2019年10月31日 改訂

Japan Council Chapter Operations Committee Chair 福田

Tokyo Section Chapter Operations Committee Chair 奥村

Japan Council Secretary 滝嶋

1. Chapter が関わる Sponsorship の承認手順

(0) IEEE 側の担当者 (Chapter 等) は、共催/協賛の承認手続きに先だち次を済ませておく。

- ・ 営利団体への共催、協賛は、原則、行わない、ことの確認

IEEE Policy 10.1.2 項参照

https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf

- ・ 事前に相手先の組織を確認し、実態不明の組織との「共催」とならないことを確認
- ・ Organizational Unit (OU)間の協議で、Financial Co-sponsorship か Technical Co-sponsorship かを決定
- ・ 関係するOU 間で責任分担を明確にして、MOU を作成

(1) 国際会議主催者がIEEE Conference Application からweb 登録後、IEEE MCE より、該当するOU (Section) Officer に承認依頼が届くので、Section Secretary は、Section 事務局に送付し採番(#1)を依頼し、事務局はSection COC (Chair)に検討依頼を行う。

#1 事務局通し番号、会議名、MOU 記載の会議番号、TCS/FCS の識別、関連Chapter、関連支部、IEEE MCE からの送付日、審議期間、審議状況等を記録する。

(2) Section COC(Chair)は該当するChapter に対して、確認、審議を行う。

複数のSection のChapter からなるJoint Chapter が該当する場合、または、その依頼の場合には、Main Section だけでなくJoint のすべてのSection のChair, Secretary (#2), (当該Section に存在する場合) COC とも期限を定めて審議を行う。

協議時間は、1 週間を目安としながら、案件ごとにSection のCOC (Chair)が設定する。

#2 Main Section 以外のSection の Chair, Secretary は、審議結果を依頼元の Section COC (Chair) に電子メールにて報告する。この際に、本部web での結果登録を行っては「ならない」。

審議においては、Section COC(Chair)は以下を行う。

① TCS の場合は、TCS-Fee の負担組織を確認する。TCS-Fee は、Conference の主催者、Chapter/Section、その両者の分担の3 つのケースがある。あらかじめ設定した期限までにSection から非承認回答がなければ、承認として処理する。

- * IEEE のTechnical Co-Sponsorship Fee (TCS-Fee) が2019 年1 月1 日より導入され、IEEE Geo Unit とTCS を締結している国際会議は1,000 ドルに加え、IEEE Xplore 掲載費として15 ドル/Paper の費用負担を行う。なお、Xplore に掲載しない場合でも、定額1,000 ドルを負担する。

【参考】 MGA Operations Manual : 10.4Conference involvement, C-2 TCS Fee
https://mga.ieee.org/images/files/MGA_Operations_Manual_02.2018.pdf

② FCS の場合は、支部負担がないことを担保するため、次のことを確認する。

- ・ 「関係Section は一切の金銭負担は負わないこと」をChapter に伝えるとともに、
- ・ 「会議が最悪ケースでも赤字予算にならないこと」を確認し、Section の確認に移ることとする。
- ・ FCS については、関係全Section からの承認回答を以て承認とする。

(3) Section Secretary は、COC の答申結果に基づき、次の処理を行う。

- ・ TCS の場合は、Section Secretary が承認(web)して、後日、Section 理事会で報告する。
- ・ FCS の場合は、Section の理事会でメール審議を行い、承認後にSection Secretary が承認(web)を行う。

(4) 費用負担が発生する場合の注意点

- ・ Chapter/Section が費用負担を行う場合（負担率(%)が0 でない場合）、負担分の収支の確認のため予算案を同時にChapter から提出いただく。
- ・ 国際会議主催者が IEEE Conference Application からweb 登録を行う前に、事前にChapter/Section に費用負担の承認を求める場合がある。その場合も同様に、上記の手続きにより対応する。承認を得たのち、正式にweb 登録してもらう。

【参考】 IEEE Policy 10.1.4 項

https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf

2. Chapter が関係しないSection でのSponsorship の承認手順

国内学会等からのSection 宛の協賛依頼については、Section 理事会のメール審議で協賛の可否を審議し、承認後に依頼元へ事務局から回答する。

3. MOU を必要としないChapter でのSponsorship 処理について

以下の場合、MOU を必要としない。

この場合Chapter 内で可否を審議判断し、所属Section 等には結果の報告を行う。

- (1) 会議の財政規模（収入または支出の多い方）が25,000USD を超過する会議において、当該Chapter の担当内容が、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
(運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)、物品貸与を伴わない場合)

- (2) 会議の財政規模が25,000USD 以下の会議において、当該Chapter の担当内容が、物品貸与、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
(運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)を伴わない場合)

#3 運営収支が支出過剰になった場合に財政負担を行うような責任

#4 運営資金の一部または全部を支出するまたは物品を供出する責任

※ 注意点

- ・ いずれの場合にも、営利団体への共催、協賛等は、原則、行わない。
- ・ 役務や責任に対する認識相違を防止するため、依頼元からはIEEE 側の役務や責任を明記した依頼状を受領することとし、協賛等の可否判断の審議に供することとする。
- ・ 上記の諸条件で規定できない何等かの責任を負う場合には、責任の内容によってはMOU を締結することが好ましい場合がある。判断に迷う場合には、支部、或いはJCCOCに問い合わせる
- ・ Logo の使用に当たってはIEEE Policy 6.3.2 項、10.1.17 項、12.1 項に準拠のこと
https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf

【参考】 MOU の要否判断例

(A) 財政規模が 25,000USD を超過する会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断

(B) 財政規模が 25,000USD 以下の会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 3、4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断

以上

2021 年 IEEE 関西支部連絡先
〒540-6207 大阪府 大阪市 中央区 城見 2-1-61
OBP パナソニックタワー7階
パナソニック株式会社 知的財産センター 内
IEEE 関西支部事務局
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>